

富田林の自然

人と生きものがひびきあう
里山をめざして



No.6

2008年3月

富田林の自然を守る市民運動協議会

目 次

富田林自然を守る市民運動協議会の一員になって 喜 田 博 三	1
奥の谷周辺に咲く草花	2
里山の崩壊で急速に衰退する日本的なチョウ類 石 井 実	6
錦織公園生きもの歳時記（錦織公園自然友の会機関誌「にしこおり」より転載） 浅 野 晴 也	11
緑の基本計画における「重点的な取組み」3地区の詳細調査 ～ H19年度「自然環境保全活用調査その6」報告書より抜粋～	15
協議会参加団体の活動紹介 （NPO 法人里山倶楽部、「石川あすかプラン」を考える市民連絡会、竜泉里山クラブ、富田林の自然を守る会、富田林勤労者山岳会「嶽の会」、金剛の自然環境を守り育てる会、NICE 富田林チーム）	25
平成 19 年度 協議会事業報告	29
嶽山の草花リスト	31

表紙の写真

自然観察講座（野鳥の観察）

協議会は2007年度に、「キノコをさがそう」、「秋の木の実と紅葉」、「野鳥の観察」の3回シリーズの自然観察講座をおこなった。「野鳥の観察」は2008年1月19日に奥の谷周辺で行われ、ツグミ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ノスリなど21種類の野鳥を観察した。写真は望遠鏡で、遠くの樹上に留まったキジバトを観察する子どもたち。

富田林自然を守る市民運動協議会の一員になって

寺池台三丁目自治会「金剛の自然環境を守り育てる会」が発足しました

代表世話人 喜田 博三

2007年4月、自治会の内部組織として発足しました。まだ1年になりません。

守り育てる会(以下 略称する)の発足のきっかけは、2005年、金剛から滝谷に至る丘陵地が住宅開発されることと、更にそこに準絶滅危惧種「オオタカ」と絶滅危惧種「メダカ」が棲息していることを知ったからです。既成住宅地生活道路を進入路にすると住宅開発計画が富田林市の開発審議会を経て、大阪府に送付され、計画が進められていました。

寺池台三丁目の住民は寺池台3号公園を平らに改作せず、公園の現状保全と錦織公園に連なる残存雑木林の緑地保全を大多数の署名を付して市に強く要望しました所理解を得、受け入れられました。

日本野鳥の会大阪支部からは住民による環境保全活動こそ、オオタカ等の保全の源泉であると指導頂き、「地域環境保全」を目的に自治会の内部組織として「守り育てる会」が発足しました。おおよそ1年がたち、活動に手ごたえを感じつつあります。

私たちが目指すところは、自然との共生とふれ合い豊かな街づくりです。日本野鳥の会も田んぼを中心とする水辺を大切にすることを提言しています。田んぼ保全に協働させて頂くよう農家との理解を深めて、そして自然風景の中に、“屯”する場所が欲しいものです。

最後に、私たちはまだまだ素人で弱体です。今後共に皆様のご指導、ご鞭撻をお願いします。

奥の谷周辺に咲く草花

富田林の自然を守る会が1997年に奥の谷を含む嶽山の植物の調査を行って、草本類（被子植物）については209種を報告してます（「富田林の自然」No.6,1999, 富田林の自然を守る会発行）。その後の自然観察会などでの記録を加え現在までに259種が記録されています。これらのうちで外来種が約23%を占めています。ここでは、それらの植物のうちから生育地（観察された環境）を林床、林縁、草原、道端、湿地に分け、在来種で花が美しいものや比較的珍しいもの45種を選び、紹介します（巻末に植物リストを掲載）。

林床で見つけた草花



ショウジョウバカマ（ゆり科）

コナラやクヌギが芽吹く前、早春の里山の林床に淡紅色の美しい花を咲かせる。旧葉の先端は地につくと新苗をつくる。やや湿った林床に多い。



シハイスミレ（すみれ科）

早春の林床や林縁にかわいい花を咲かせる。葉は長めの卵形で裏は紫色。明るくやや乾燥した林床に多い。



ホウチャクソウ（ゆり科）

林の中や藪のかけなど、やや湿った日陰に生える。名前の由来は花の形がホウチャク（宝鐸）に似ていることによる。



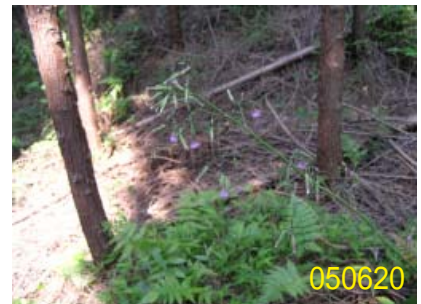
ツルアリドウシ（あかね科）

茎は林床を這い、6月頃、枝先に2個並んで小さい白い花を咲かせる。球形の実をつけ赤く熟す。



ササユリ（ゆり科）

6月頃、淡紅色の美しい花を1～数個つける。以前は奥の谷周辺の林床にたくさん見られたとのこと。下樵りなどの里山管理による復活が期待される。



ムラサキニガナ（きく科）

スギ・ヒノキの人工林の林床などの木陰に生える。6～8月頃、紫の花をつける。



コ克蘭（らん科）

雑木林やスギ・ヒノキの人工林などのやや薄暗い林床に生える。常緑樹の林床に多い。6～7月、濃い紫の小さい花を総状につける。



ノシラン（ゆり科）

7～8月ごろ、下向きに垂れ下がった白い花を総状につける。藍色の倒卵形の実をつける。



ヤブミヨウガ（つゆくさ科）

スギ・ヒノキの人工林の湿った林床に群生することが多い。花が少ない8月の中旬～9月初旬に白い花を咲かせる。



ヤマホトトギス(ゆり科)
 茎の頂きに枝をわけて数個の花を付ける。花は淡紅紫色で、濃い紫赤色の斑点がある。花期は7～9月。嶽山では、雑木林の林床に局地的にみられる。



ヤマジノホトトギス(ゆり科)
 花は茎のいただきと葉のわきに1～2個ずつつく。花期は8～10月。嶽山では、雑木林やスギ・ヒノキ林の林床に局地的にみられる。



シュンラン(らん科)
 高さ20cmほどの常緑多年草。花茎の先端に1花をつける。唇弁に紫色の斑点がある。和名：「春蘭」花期：4月。

草原で見つけた草花



カンサイタンポポ(きく科)
 近畿地方以西に多い。総ぼう(花の下の部分)が反り返らず突起も無いのが特徴。水田の畦などに群生する。花期：2～5月。



タツナミソウ(しそ科)
 花が片側を向いて咲く様子を、押し寄せてくる波に見立てた。和名：立浪草。田の畦などに生える多年草。花期：5～6月。



ノアザミ(きく科)
 全体が細毛でおおわれ、紅紫色の頭状花をつける。日のあたる草原に生える。花期：6～8月。



チガヤ(いね科)
 田の畦などに群生する。花穂を出して円柱状の花弁をつける。穂には白色の毛が密につく。田の畦の基本植生。花期：5～6月。



アキノタムラソウ(しそ科)
 7～10月、細長い穂を出し、淡紫色の唇形花をつける。奥の谷では8月になると田圃の畦などあちこちに咲き始める。11月まで見られる。



ヤマハッカ(しそ科)
 山の草原に生える多年草。紫色の花が穂状に咲く。香気はほとんど無い。花期：9～10月。



ツリガネニンジン(ききょう科)
 青紫色の鐘形花をまばらにつける。ススキ草原に生える。和名は「釣鐘人參」で、人參は根が朝鮮人參に似ることによる。花期：9-11月。



ワレモコウ(ばら科)
 茎の先端に短い円筒状の花序をつける。花は暗い紅色で、花序の先端から輪状に咲く。ススキ草原に生え、時に湿原にも生える。花期：8-11月。



リンドウ(りんどう科)
 山間の田の畦や林縁に生える多年草。「リンドウ」の名は中国名「竜胆」に由来しており、古今集では「りうたむ」と呼ばれている。花期は10～12月。

林縁で見つけた草花



ノダケ(せり科)

林内や林縁に生える多年草。枝先から複散形花序をだし、暗紫色の花を付ける。花期：9～11月。



ムラサキケマン(けし科)

湿った日陰に生える2年草。種子をルーペで見ると、種枕という白い付着物が付いている。これをアリが好み、種子が散布される。花期：4～6月。



シャガ(あやめ科)

葉は上面が内側に折りたたまれ、さらに一方に傾く。淡青色の花をつける。長い地下茎を伸ばして群落となる。花期：4～5月。



オカトラノオ(さくらそう科)

葉をすかすと油点が見える。花穂は白色花を密につけ、一方に傾く。花後、花穂は直立する。秋には全体が紅葉し美しい。日のある草原に多い。花期：6～7月。



イナカギク(きく科)

日当たりの良い山地にはえる。西日本に特に多い。花期：9-11月。奥の谷では用水路の脇に1～2ヶ所みられるに過ぎない。



リュウノウギク(きく科)

日当たりのよい山地にはえる多年草。ノジギクに似るが、分布域が異なる。竜腦に似た香がある。花期：10～11月。



キランソウ(しそ科)

高さ2～5cmの小形の多年草。花は葉の付け根に集まり、花冠は唇形状で紫色をおび、濃い色のすじがある。花期：3～5月。



ヤクシソウ(きく科)

根生葉はさじ形で紫色の筋のあるものが多い。茎葉は茎を抱く。山地の陽地に生え、しばしばタケニグサとともに群落をつくる。花期：8-11月。



ヒヨドリジョウゴ(なす科)

半つる性で、花冠は白色で5深裂し、反り返る。果実は赤く熟す。和名は「鶴上戸」と書き、ヒヨドリが好んで食べることによる。有毒。花期：8～9月。



ヒヨドリバナ(きく科)

散房状の頭状花を多数つける。花は白で少し紫みをおびる。名前の由来はヒヨドリの鳴く頃に花が咲くため。奥の谷では山道の道端に多い。花期：8～10月。



オトギリソウ(おとぎりそう科)

葉は十字対生。光にすかすと黒色の腺点がみえる。7～8月、黄色の5弁花をつける。「弟切草」で、薬効を他人にもらして殺された伝説による。



カラスウリ(うり科)

つる性の多年草。茎は伸長して3～4mに達する。花は夕方咲き、朝しぼむ。果実は赤く熟す。花期：8月下旬～9月上旬

道端で見つけた草花



060909

キンミズヒキ(ばら科)

茎の先端に黄色の小花を穂状につける。日のあたる路傍や草地に生える。「金水引」の意で黄色の花穂を金色の水引きにとえた。花期：7～10月。



070410

ノジスミレ(すみれ科)

道ばたや草原に生える多年草。スミレに似るが、全体に毛が密生している。葉身の基部が上に向かって巻きあがる。花期：4月



060404

タチツボスミレ(すみれ科)

葉は地ぎわから出て長い柄があり、くしの歯状の托葉が目立つ。日当たりのよい道端や雑木林の林縁に見られる。花期：4～5月。



060909

ガガイモ(ががいも科)

日当たりの良い原野に生えるつる性の多年草。茎を切ると白い汁が出る。葉の上面は無毛で光沢がある。花冠は5裂し淡紫色。花期：8月。



センニンソウ(きんぼうげ科)

つる性で、茎はよく伸び他の植物におおいかぶさるように生長する。8月、多数の白色の花が集散花序につく。



050409

コスミレ(すみれ科)

日当たりの良い山野に生える多年草。花は大きく、淡藍紫色。奥の谷の山道でよく見かける。花期：3～4月。

池や湿地で見つけた草花



コナギ(みずあおい科)

8～10月に開花し、青紫色の花をつける。水田の代表的な雑草。奥の谷の「水の生き物池」に水をためた2年後から見られはじめ、今では群生している。花期：9～10月。



カサスゲ(かやつりぐさ科)

湿地に群生する多年草。長い葉で笠や蓑を作った。奥の谷の生きもの池に南原から移植したものが定着している。花期：4～7月。



ヌマトラノオ(さくらそう科)

直立した総状花序をつける多年草。南原に群生地があるが、奥の谷でも昨年、池田の草原にみられた。花期：7～8月。



ミゾカクシ(ききょう科)

田んぼの溝など湿地に生える多年草。花冠は白色か淡紅色で5裂して、上の2つが横に向く。花期：6-10月。



ヒシ(ひし科)

池に群生する1年草。葉柄の中央がふくれ浮き袋の役目をする。奥の谷の今池の水面を覆う。花期：7～10月。



ツリフネソウ(つりふねそう科)

山の湿地に群生する1年草。細い柄の先にぶら下って紅紫色の花をつける。ホウセンカのようにはじけて種子を飛ばす。花期：8～10月。

里山の崩壊で急速に衰退する日本的なチョウ類

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授

石 井 実

はじめに

日本には、迷チョウのように一時的に出現する種を除き、約 240 種のチョウ類が分布している。とは言っても、大阪のような大都市の住宅地や公園などで見られるチョウは 30 種前後である。チョウやガの研究者・愛好家の集まりである日本鱗翅学会の全国の会員にアンケートを実施したところ、住宅地の庭で見られるチョウは 3～58 種だった。そのうちアゲハチョウ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、クロアゲハ、キチョウ (=キタキチョウ)、イチモンジセセリの 6 種は回答が寄せられた 8 割以上の庭から記録され、日本の住宅地を代表するチョウ類と言えることがわかった。これらのチョウは、庭木や路傍の野草を食樹や食草として 1 年に数世代発生し、移動能力が高いなど、市街地でも生活できる特徴を備えている。

しかし、東京や大阪の都心でも、以前はもっと多くのチョウ類が生息していた。例えば、大阪市内では 1900 年代の初めには 60 種以上のチョウ類が生息していたというが、現在確実に見られるのは 30 種程度である (表 1 参照)。都市域におけるチョウ類の衰退、言うまでもなく市街化による生息場所の破壊や減少によるものである。そして、都市化により姿を消すチョウ性格として定住性、1 化性 (年に 1 回だけ発生)、自然植物食性、森林性などがあげられている。例えば、上記の 6 種のチョウは、いずれも多化性 (年に数回発生) であり、市街地でも見られる野草や庭木などを寄主植物としている。

都市化とともにチョウ類が減少するのは当然のこととも言えるが、では郊外に行けばまだ多くのチョウ類が見られるのかと言えば、そうではない。実は、日本のチョウ類の生物多様性保全の観点から、もっと深刻なのは里山の種の衰退なのである。

表 1 大阪府内の都市公園で見られたチョウ類の種数と上位 3 種 (石井ら, 1991 より)。調査は 1988 年。

公園名	地域	種数	上位 3 種
箕面公園	箕面市	35 種	①ウラギンシジミ、②キチョウ、③ヤマトシジミ
服部緑地	豊中市	32 種	①ヤマトシジミ、②ヒメウラナミジャノメ、③モンシロチョウ
大阪城公園	大阪市	14 種	①アオスジアゲハ、②イチモンジセセリ、③モンシロチョウ
大泉緑地	堺市・松原市	22 種	①ヤマトシジミ、②イチモンジセセリ、③モンシロチョウ
大仙公園	堺市	21 種	①ヤマトシジミ、②モンシロチョウ、③アオスジアゲハ

里山の崩壊とチョウ類の衰退

典型的な日本の農村の景観は、水田を主体とする農耕地と背後の里山林、採草地、集落などから構成されていた。この農村の景観全体をここでは広い意味での里山と呼ぶことにしたい (里地

と呼ぶこともある)。そのうち里山林は薪や炭などの燃料や堆肥などを得るために必須の存在であったが、石油やプロパンガスなどの化石燃料や化学肥料の普及でその価値が低下し、放棄されるようになった。農耕用の牛馬を養い、茅葺屋根の材料を得るための採草地や茅場もいまや不要になった。大型機械の導入のために水田や水路、ため池などの大規模な整備も進められている。このようにして、里山の自然はこの半世紀ほどの間に大きく変容し、かつてはそこで普通に見られた里山性チョウ類の生息が困難になってきた。

コナラやクヌギなどの落葉樹を高木層の主体とする関東や関西の里山林は、カブトムシやクワガタムシ類などをはじめ、チョウ類ではミドリシジミ類や国蝶オオムラサキなどの生息場所であった。しかし、前述の「燃料革命」や「肥料革命」以降、経済的価値の低下した里山林は開発の対象になったり、スギやヒノキの植林地に転用されたりすることで、これらの昆虫の減少が顕著になってきた。

里山林は、もし残されたとしても、管理が行き届かなくなるとチョウ類の衰退につながる。例えば、ギフチョウは本州の山間部の里山に少なくなかった。しかし、里山林が放置されることで林床のネザサや低木が伸長し、高木がうっそうと茂るなどして、幼虫の食草であるカンアオイ類や成虫の蜜源となるスミレ類やカタクリなどの森林草本が衰退、このチョウは多くの地域で姿を消しつつある。南大阪でもギフチョウの産地は減少し、現在でも確実に見られるのは大和葛城山の周辺のみとなった。また、林床のスミレ類の衰退は、それらを食草とするウラギンヒョウモンやウラギンスジヒョウモンなどのヒョウモンチョウ類を各地で減少させている。

里山の草原性チョウ類はもっと厳しい状況にある。前述の人里草地が減少したのに加えて、水田や河川敷などで大規模な改修が進み、外来草本が繁茂するなどして、草地の景観が一変したためである。草丈の低い草地が減少したことで、陽地性のスミレを食草とするオオウラギンヒョウモンやミヤコグサに依存するシルビアシジミなどのチョウ類が急速に姿を消し、ススキの茅場が荒廃したことでギンイチモンジセセリなども減少している。また、水田まわりの湿地に自生していたカワラケツメイを食草とするツマグロキチョウも全国的に衰退した。大阪においても、最近、伊丹空港周辺での発生が確認されたシルビアシジミを除き、これらの草原性のチョウ類はほぼ壊滅状態である（表2参照）。

表2 大阪府レッドデータブック（大阪府，2000）に掲載されているチョウ類。○は南大阪で記録のある種。

ランク	掲載されているチョウの種名
絶滅種	○オオウラギンヒョウモン、○ヒメヒカゲ
絶滅危惧Ⅰ類	○ツマグロキチョウ、○クロシジミ、○シルビアシジミ
絶滅危惧Ⅱ類	○ギンイチモンジセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、○ギフチョウ、○スジボソヤマキチョウ、アイノミドリシジミ、ヒサマツミドリシジミ、エゾミドリシジミ、ヒロオビミドリシジミ、ウラクロシジミ、○ウラナミアカシジミ、キマダラルリルバメ、ダイセンシジミ、キマダラモドキ、○ウラナミジャノメ
準絶滅危惧	○アオバセセリ、○ヒメキマダラセセリ、ウラジロミドリシジミ、ミドリシジミ、ウラキンシジミ、○ウラギンスジヒョウモン、○オオウラギンスジヒョウモン、○ウラギンヒョウモン、○クモガタヒョウモン、○スミナガシ、○ミスジチョウ、○オオムラサキ、○クロヒカゲモドキ、○ヤマキマダラヒカゲ、○ヒメキマダラヒカゲ

里山で減少しているのは日本的なチョウ類

このように、近年の里山のチョウ類の衰退は顕著である。前述の約 240 種の日本の土着チョウ類のうち、種レベルで絶滅したものはないものの、地域ごとにみると事態はきわめて深刻で、環境省のレッドリストには 62 種ものチョウがあげられている。特に草原性のチョウ類については、このまま放置すると近い将来、絶滅種が出る可能性すらある。

上記のオオウラギンヒョウモンは大阪ではすでに絶滅種として扱われているが、最近発足した「日本チョウ類保全協会」によると、日本国内で過去に記録のある市町村の 95% ですでに絶滅したとされる。大阪からの記録はないものの、同様にヒョウモンモドキ、ウスイロヒョウモンモドキ、オオルリシジミといった草原性のチョウでは、市町村単位の絶滅率はそれぞれ 95%、87%、82% に上るといえる。日本の草原性チョウ類の置かれている深刻な状況を物語る数字といえる。

里山のチョウ類を分布という観点から見ると、日本固有種あるいは日本固有亜種を含む東アジアの要素が多いという特徴がある。例えば、ギフチョウは日本固有種であり、オオムラサキやオオウラギンヒョウモン、ウラギンスジヒョウモン、ギンイチモンジセセリ、ミドリシジミ類などは日本周辺にしか分布しない温帯性の種である。里山の崩壊は、日本的なチョウ類を危機に陥れたということができる。

分布を拡大する南方系のチョウ類

里山の種が衰退する一方で、近年、日本国内で分布を拡大させているチョウもいる。ひとつの類型は東南アジアの熱帯から亜熱帯に分布の中心をもつ南方系チョウ類の北方への分布拡大である。その状況は、この 10 年ほどの間に日本国内のいろいろな地域で確認されている。

例えば、以前は迷蝶として散発的な記録しかなかったツمامラサキマダラが、現在では奄美大島以南の南西諸島に定着した。また、かつて日本では南西諸島だけが確実な土着地と考えられていたタテハモドキは、いまや九州全域に広がりつつある。同様に、中国地方と近畿地方ではイシガケチョウやミカドアゲハ、関東地方ではナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモン、ムラサキツバメ、東北地方南部ではウラギンシジミとムラサキシジミが、それぞれ東方あるいは北方へと分布を広げている。さらに、東北地方南部あたりを分布の北限としていたクロアゲハとヤマトシジミが最近、青森県でも見られるようになった。

大阪では、以前は見られなかったナガサキアゲハが 1980 年代から増加し、最近ではほぼ全域から記録されるようになった。この南方系のアゲハチョウは、1940 年代には山口県や愛媛県以南に分布していたが、1980 年代に大阪への侵入が確認され、1990 年代には近畿地方のほぼ全域に定着した。その後、本種は太平洋岸沿いに急速な分布拡大を示し、2000 年頃までには関東地方南部に侵入・定着した。このほか、近畿地方では紀伊半島南部でしか見られなかった南方系のヤクシマルリシジミとサツマシジミが、最近、南大阪地域でも記録されるようになった。

このような南方系チョウ類の分布拡大は、気候の温暖化によるものと考えられるが、その陰でひそかに進行しているはずの北方系や温帯系の種の衰退が心配である。また、気候の温暖化にもなう生息場所の乾燥も懸念される。例えば、ギフチョウやオオムラサキなどは越冬期を地表付近の湿度の高い場所で過ごすのが、このように生活史の一部あるいはすべての段階で乾燥を嫌う種はだいたいどうだろうか。気候の温暖化も、里山のチョウ類の衰退要因になると考えられる。

外来種の侵入と分布拡大

分布を拡大しているチョウ類のもうひとつの類型は、外来種である。例えば、1978 年ごろ東京都内で発見されたホソオチョウは、すぐに神奈川県、埼玉、山梨などの各県に広がり、1993 年には京都府南部の木津川河川敷でも発生を始めた。現在では、関東から九州の一部にまで分布を拡大し、ウマノスズクサを寄主植物として利用する在来種ジャコウアゲハへの影響が懸念されている。大阪でも富田林駅付近で発見されたことがあり、石川と大和川の合流点付近では短期間発生した。このチョウはおそらく、何者かによって韓国あたりから密輸・放蝶されたものと考えられ、その後の持ち運びと放逐によって日本国内に広まったと推定される。

同様の事例は、ごく最近、アカボシゴマダラでも発生した。このチョウは 1998 年に神奈川県内で発見され、その後、同県東部から東京都や埼玉県に急速に分布を広げた。アカボシゴマダラは、日本でも奄美大島周辺に固有亜種が分布するが、神奈川県で発見されたものは大陸亜種と考えられている。一昨年の夏、横浜市戸塚区の里山を訪れ、このチョウの食樹であるエノキの調査を行ったところ、すべての木から幼虫が見つかり、成虫も何度か目撃した。そこにはナガサキアゲハも飛んでおり、とても横浜の里山とは思えなかった。この外来種アカボシゴマダラの場合、エノキを寄主植物とする在来種ゴマダラチョウなどへの影響や日本固有亜種の分布する奄美大島への侵入が懸念される。

このような「国外外来種」の侵入と同様、悩ましいのが、「国内外来種問題」とでもいべき他個体群の「放蝶」（導入）である。例えば、神奈川県では石砂山に生息するギフチョウを天然記念物に指定したが、最近、新潟や富士川流域の個体群の成虫が放たれ、遺伝的攪乱が生じているという。また、岡山県の本来ギフチョウのいない里山に他県産の個体が導入され、発生しているという報告もある。

一方で、長野県安曇野に残されたオオルリシジミの個体群は、ボランティアによる終齢幼虫の野外からの取り込みと翌年の蛹の放逐で維持されている。また、そこでは近隣に再生した生息場所への再導入も試みられている。すなわち、地域レベルで種の絶滅が進行しつつある現在、「放蝶」という行為を一括して「悪」と決め付けるわけにもいかない。

チョウ類をめぐる外来種問題でもっとも深刻なのは、小笠原諸島の外来トカゲと外来樹木の増加かもしれない。それらの強い影響を受けているのはオガサワラシジミで、数百万匹にも増えたグリーンアノールによる捕食とギンネムやアカギなどの侵入・増加による植生の変化で、この小笠原固有のシジミチョウは日本で最も絶滅に近いチョウのひとつになってしまった。

おわりに

2002 年に日本政府が策定した「新生物多様性国家戦略」には、日本の生物多様性の 3 つの危機として、開発などの人間活動の影響、里地里山の荒廃などの影響、外来生物や化学物質の影響があげられた。昨年の 11 月、政府は国家戦略の見直しを行ったが、「第 3 次戦略」では、第 4 の危機として気候の温暖化による影響が加えられた。これまで述べてきたように、これらすべての「危機」がチョウ類についても当てはまる。すなわち、チョウ類の生息の状況は、日本の野生動植物の生物多様性の状態を反映するものとなっている。

国家戦略には、生物多様性保全のためのさまざまな具体的な方針や施策が盛り込まれているが、

とくに重要なのは、これ以上絶滅種を出さないことだろう。そのためには、日本的な種が多く生息する里山の自然の維持あるいは再生とネットワーク化が必要である。

最近、ある研究者から「農業との関係を失った里山は、もはや里山ではない」と指摘されたことがある。もっともな意見である。その意味では、地元の産業を巻き込んだ豊岡のコウノトリの再導入事業は見習うべきことが多い。里山の自然を活かすために、いまが多方面の叢智を結集すべき時であると思う。それは日本的な自然と文化を後世に継承する道でもある。

参考文献

原 聖樹 (1996) 天然記念物石砂山のギフチョウは純潔を守れるか. 追われる生きものたち—神奈川県レッドデータ調査が語るもの, pp. 94-96, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

日浦 勇 (1973) 海をわたるチョウ. 蒼樹書房

石井 実 (2001) 森林文化とチョウ相の成り立ち—大阪での考察. 「照葉樹林文化論の現代的展開 (金子 務・山口裕文編)」, pp. 351-372. 北海道大学図書刊行会.

石井 実 (2003) 種の保全. 「昆虫学大事典 (三橋 淳総編集)」, pp. 1087-1102. 朝倉書店.

石井 実 (2003) 庭のチョウのモニタリング調査—1997~2002年の結果—. 「日本産蝶類の衰亡と保護」第5集 (巢瀬 司・枝恵太郎編) : 225-242, 日本鱗翅学会.

石井 実 (2006) 深刻化する外来種問題と外来生物法. 昆虫と自然, 41(13) : 2-3.

石井 実 (2006) 南方系チョウ類の分布拡大とその要因 (特集 温暖化? ヒートアイランド? 分布を拡大する昆虫たち). 生活と環境 51(10) : 29-35.

石井 実 (2007) 日本の昆虫の現状. 生物の科学 遺伝 61(3) : 23-28.

石井 実・山田 恵・広渡俊哉・保田淑郎 (1991) 大阪府内の都市公園におけるチョウ類群集の多様性. 環動昆, 4 : 183-195

岩野秀俊 (2005) 神奈川県におけるアカボシゴマダラの分布拡大の過程. 昆虫と自然 40(4) : 6-8.

環境省自然環境局野生生物課編 (2006) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—5 昆虫類. 自然環境研究センター.

日本自然保護協会編 (2005) 「生態学からみた里やまの自然と保護」(石井実監修). 講談社.

大阪府 (2000) 大阪府における保護上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック—.

桜谷保之・菅野格朗 (2003) 京都府木津川堤防におけるホソオアゲハの生態—特に在来種ジャコウアゲハとの比較—. 「日本産蝶類の衰亡と保護」第5集 (巢瀬 司・枝恵太郎編) : 181-184, 日本鱗翅学会.

小路嘉明 (1997) ホソオチョウ. 「日本動物大百科9 昆虫II」(石井・大谷・常喜編). 平凡社, 東京.

谷川哲朗・石井 実 (2007) 石砂山に導入された外来個体群ギフチョウの定着可能性. 蝶と蛾, 58:18-24.

錦織公園自然友の会は、「里山公園とも言える錦織公園において、自然とふれあい、自然に親しみ、自然に働きかけ、人と自然の共生を楽しむ」ことを目的として、1996年4月1日に発足しました。里山管理作業、自然観察会、自然体験イベント（どんぐりまつり、工作体験、凧上げ大会など）、遠足の下見ガイドツアーなど多彩な活動をしてきました。2003年度より公園管理が大阪府公園協会に移行されたことに関連する、様々な事情から友の会の活動を停止していましたが、2007年度をもって解散することになりました。これを機に、活動中に発行されていた友の会の機関誌「にしこおり」に連載された浅野晴也氏による「錦織公園生きもの歳時記」から、4編を転載します（写真は別のものを使用しました）。

錦織公園生きもの歳時記

浅野晴也

春（「にしこおり」2000年4月号 No.17より）

冬の寒さをじっと耐え忍んだ生きものたちが、その間にたくわえたエネルギーを、新しい生命を育む力として放出する季節がやってきました。春です！

錦織公園の春は、アオモジやショウジョウバカマ、スミレの花が咲くことから始まります。その後、サクラやツツジ、シュンラン、タンポポ、キランソウ、5月になるとフジ、カマツカ、ヘビイチゴ、ニワゼキショウなど多種多数の花が咲き乱れます。

シハイスミレ、コスミレ、フモトスミレ、特にスミレは3月中頃のシハイスミレ、コスミレ、から最後のツボスミレ、アリアケスミレまで、ひと月余りの間に10種類の花が順次咲き競います。

昆虫たちも永い冬の眠りから覚め、ねぼけているように飛び始めます。ピロードツリアブは細長い口をもった、あいきょうたつぷりのアブの仲間ですが、春の早い時期にしか見られません。ピロードツリアブと交代して姿を見せるのがクマバチです。彼らはせっせと花に通い、花粉や蜜を集めて回ります。クヌギやコナラの樹液のしみ出している所には、スズメバチの女王蜂がよく見られます。これから家族を増やすための栄養補給をしているのでしょう。ウラギンシジミ、ルリタテハ、キタテハやツマキチョウなどの蝶も飛び始めます。ツマキチョウはモンシロチョウのような蝶ですが、これも春にしか見ることができません。

餌にする昆虫たちがたくさん増える時期にあわせて、小鳥たちも巣を作り、子育てを始めます。鳥たちは虫たちを食べます。虫たちは花から蜜や花粉をもらい、そのかわりに植物たちの花粉を運んでいます。それで実や種ができます。また鳥たちが食べた植物の実が、種となってフンと一緒に出され、そこからまた芽を出します。このように生きものたちは、互いに関係し合いながら生きています。

梅の里では、カンサイタンポポがたくさん咲きます。キランソウや各種のスミレも咲いています。そこから少し歩き、かすみの丘を下って桜木の里に出たところで、右上の方を見上げると、アオモジの木が見えるでしょう。名札がかかっています。3月中頃に黄色い花をいっぱいつけるでしょう。

もう一つのおすすめスポットはススキの丘、間伐地周辺です。ショウジョウバカマ、ツツジなどが咲きます。スミレの一種フモトスミレは、園内ではこころあたりでしか見られないようです。

園内を散策して、生命感あふれる～春～を感じて見て下さい。



アオモジ
(日本の樹木;林弥栄編;山と溪谷社;1998より)



フモトスミレ
(野草図鑑 ;長田武正,長田喜美子;保育社;1986より)

夏 (「にしこおり」2001年7月号 No.22より)

今回はホタルの話をしりたいと思います。園内にホタルはいますかと聞かれることがあります。実は園内にもホタルはいるのです。しかしそれは光らないホタルなのです。ホタルは光るものと思っている人が多いのですが、このあたりで光るホタルはゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルの3種類だけで他の多くのホタルは光らないのです。私が園内で採取したホタルは喜田さんに鑑定してもらった結果、オバボタルということでした。他に羽が赤いベニボタルの仲間も見たことがあります。

ホタルが光るのは繁殖するのにオスとメスが出会うための合図なのです。

ゲンジボタルやヘイケボタルは最も古いタイプのホタルだそうです。ゲンジボタルやヘイケボタルの水辺に住む光るホタルから、オバボタルなどの陸上に住む光らないホタルへ進化していったのだと考えられています。オバボタルなどは光のかわりにフェロモンを出して、においてオスとメスが出会うそうです。

園内ではありませんが錦織公園のすぐとなり、寺池台入り口にある民間駐車場横の畑の溝の所で、昨年6月末にヘイケボタルを見つけました。オスとメスのひとつがいただけしかいませんでしたが、交尾していたので細々とながら今年も見れるかも知れません。

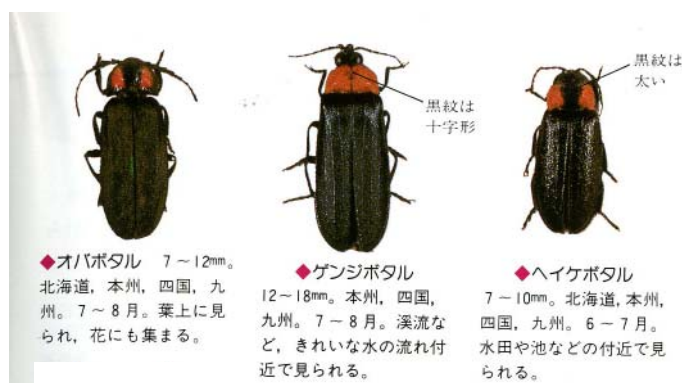
ヘイケボタルやゲンジボタルたちは、幼虫時代を水の中で巻き貝を食べて過ごすので、巻き貝のいる水辺が必要です。次のさなぎの時には土の所が必要であり、幼虫からさなぎになるために水辺から陸上に上がってくるので、その間が連続していなければなりません。コンクリートの三面ばりの水辺ではなかなかすめません。成虫になりオスとメスが出会うためには、光の合図が必要で、それが良く解るためにはあたりが暗くなくてはなりません。最近は街灯などでホタルにとっては明るすぎる所が多いのです。さらには交尾できたとしても、産卵できる適当な場所が必要です。これらのホタルは水辺の近くのぬれたコケの所に卵を産むそうです。

ヒメボタルは陸上に住む光るホタルです。フラッシュをたいした時のようにバツ、バツと光ります。吹田や豊中の方では竹やぶなどに多数生息していて、ヒメボタルの調査をしたりしています。ゲンジボタルやヘイケボタルよりも早い時期、だいたい5月下旬ごろから光り始めます。

園内で光るホタルがいるとすればヒメボタルだろうと思います。良く捜せばひょっとすると、園内でも昔から残っている水中でヘイケボタルが細々とくらしているかも知れません。誰か一緒に夜捜しに行きませんか。

さらに生態系豊かな公園にするために先日(4/12日)に友の会の要望書を公園長に手渡しました。私たちはこの要望書を2カ月近くついやして、いまある全知全霊を傾けて書いたつもりです。どこまで理解してもらえるかは、私たちの能力の問題もありますが、相手側の見識も関係するものだと思います。

要望書の中味は、(1)大規模環境改変の禁止、(2)公園の回りに残されている山林を含む公園面積の拡大、(3)希少種の保護育成、(4)里山間伐、植生管理の方法、(5)ビオトープの創造、(6)外来生物、侵入生物について注意、(7)禁止行為、注意事項のアピール等です。



日本の甲虫;岡島秀治,海野和男;小学館;1993より

秋 (「にしこおり」2000年10月号 No.19より)

今年の夏はササユリとシャシャンボの花がよく咲いていました。みなさんごらんになったでしょうか。花を咲かせるということは、植物にとってはとてもエネルギーのいることのように、何年かおきに花を良くつける年があるようです。

秋はみのりの季節ですが、コナラやクヌギ、ブナなどの実であるドングリのできにも豊作の年や不作の年があります。ブナは6～7年に一度大豊作の年があるそうで、金剛山ではそれが今年だろうと言われていました。今年はシャシャンボの実もたくさんできそうなので、果実酒にしてみようと思っています。それと間伐地近くに一本だけ出ているリンドウも花をつけるかもしれないので楽しみです。

秋は園内でもキノコがたくさん見れる季節です。今年は梅雨のときにもたくさんキノコが出ていましたが、秋が本番です。

キノコなどの菌類は、昔は植物の仲間とされていたようですが、今では、植物でも動物でもない第3の生物に分類されています。彼らは生態系の中で、枯れ木や落ち葉を分解する分解者としての役割はよく知られていますが、他にもさまざまな役割を持っています

ひとつは、マツやコナラ、ランなどの植物との共生で、これによって植物たちは栄養分をとりこみやすくなります。普通、水分の多い所にはえるハンノキが、かすみの丘のような乾いた所でも大きく育っていますが、これも根のところで菌と共生しているからだと考えられます。

もうひとつは、冬虫夏草などで知られる虫たちに寄生する天敵としての役割です。東北のブナ林で大発生した蛾の幼虫が菌に寄生されて、成虫になるころには例年近くの数にまで減ってしまったと言う報告もあります。

昔はこのあたりはマツタケ山だったそうです。今ではネザサややぶがおおいしげり、マツタケは見られません。今からでも、やぶを刈って松林をきれいに管理していけば、数年後にはマツタケが出てくるかもしれません。

去年のキノコの観察会では、ベニタケの仲間やハツタケの仲間など25種類のキノコが見られました。中にはカワムラフウセンタケの仲間やコガネヤマドリのように、もう少し標高の高い所によく見られる種類もありました。毎年同じように見れる種類もあるし、そうでないものもあります。

今年はどんなキノコが顔を見せてくれるでしょうか。興味ある方は、10月15日「キノコの観察会」にぜひおこし下さい



シャシャンボ
(原色日本樹木図鑑;岡本省吾;保育社;1979より)

冬 (「にしこおり」2001年1月号 No.20より)

まず最初に、10月15日の「きのこしらべ」の報告をしたいと思います。当日は雨が降り出しそうな天気にもかかわらず、小金台子供会の皆さんをはじめとして40名以上参加して下さいました。ありがとうございました。ただ、多人数のため至らないところがあったのではないかと考えています。どうかご容赦願います。

昨年と違って、今年はいわゆるキノコらしいキノコがたくさん出ていました。最初に見に行ったのはクサウラベニタケという毒キノコでした。半径2mほどの輪をえがくようにしてはえていました。そのすぐ近くにウラベニホテイシメジという食用のキノコがありました。この二つのキノコは、このようによく似た所にはえ、しかも姿も良く似ているので、間違えて食べてよく食中毒を起こすそうです。病院へいかないキノコの食中毒



ムラサキシメジ
(撮影:田淵;錦織公園にて2007年11月)

では西日本で一番多いそうです。その他毒キノコでは、カキシメジやクサハツ、ニガクリタケ、柄の下の方にツボのようなふくらみのあるテングタケの仲間などがありました。

おしっこをしたあとなど、アンモニアのある所にはえるヒメワカフサタケ、古くなったキノコの上に生えてくるヤグラタケ、づんぐりむっくりした形のノウタケやホコリタケ、ニョキニョキ生えてくるシロソウメンタケ、傷つけた所から乳液が出てくるチチタケの仲間たち、きれいなダイダイ色のベニタケの仲間や、食用になるヌメリイグチなどのキノコが見られました。

講師の福田さんも熱心に解説してくださいました。ありがとうございました。「錦織公園自然友の会」では、自然観察会や、手作り工作、里山間伐体験等のイベントを毎月行っております。いつでもお気軽に参加して下さい

草花ではリンドウが咲き、キノコではムラサキシメジが顔を出して秋がじょじょに深まってゆき、やがて冬が訪れます。落葉樹は葉を落とし、虫たちは卵やさなぎで越冬したり、木の中や土の中にもぐりこんだりして寒い冬を過ごします。

草花の中には地面にへばりつくようにロゼットを出しているものもあります。今度の春には葉や花になるサクラやコナラなどの芽は、冬芽になってしっかりと寒さから守られ、来るべく春にそなえています。それぞれの樹木によって冬芽にもちがいがあり、見ていてもおもしろいものです。

ウルシやハゼノキの冬芽は、オーバーを着ているようにピロードのような毛におおわれて暖かそうです。ムラサキシキブの冬芽は昆虫のさなぎのようです。河内の里の池のほとりに植えられているトチノキの冬芽を一度さわって見て下さい。ネバネバするはずですが、こんな小さな冬芽から、春にはテングのウチワのような大きな葉っぱを広げるでしょう。

私たち「自然友の会」では、毎年冬になると園内で里山間伐をやらせてもらっています。主にヒサカキなどの常緑樹とネザサを刈り取り、林床まで光がとどくようにします。そうすることで、今まで眠っていた草花たちが目を覚まし、育ってくるようになるのです。

1997年度の冬に現在の間伐地で間伐をはじめてもう5年たちました。1998年度の春にはショウジョウバカマやシハイスミレ、ニオイタチツボスミレ、フモトスミレなどのスミレの花がいっせいに咲いてきました。夏にはキキョウ、秋にはオケラも咲きました。その他70種類くらいの植物が見れました。1999年度の春、スミレたちのほかにシュンランも咲きました。

そしてリンドウも芽を出してくれました。ここで皆さんに悲しいお知らせをしなければなりません。前回の会報で「今年はリンドウが咲くかもしれないので楽しみです。」と書きましたが、先日見に行ったところ、そのリンドウがなくなっていました。根っこから掘られたような跡があったので、たぶん盗掘だと思えます。とても残念なことです。リンドウの他にもショウジョウバカマやシュンランも盗まれた形跡があります。キキョウもだんだん数が減ってきているように思えます。このままでは、せっかくよみがえった野生の美しい草花たちが園内からなくなってしまうのではないかという危機感を抱いています。

さて、今年も里山間伐体験の季節がやって来ました。今年はどんな草花が咲き出してくれるでしょうか。里山間伐体験は2月18日、3月18日、河内の里の家に10時集合です。ぜひ一度手伝いに来て下さい。お待ちしております



ムラサキシキブの冬芽
(HP:「六甲山系の森林」より;2008年3月)



ヤマウルシの冬芽
(HP:「六甲山系の森林」より;2008年3月)

緑の基本計画における「重点的な取組み」3地区の詳細調査

～ H19年度「自然環境保全活用調査その6」報告書より抜粋～

本調査では、「緑の基本計画」で位置づけられた重点的な取組みのうち、昨年度調査で「保全すべき緑地」として提案した、お亀石古墳周辺地区（及び甘山古墳） 錦織公園西部地区、東板持地区について現地踏査と航空写真より、現況の植生や保全すべき自然等について検討した。

(1)お亀石古墳周辺地区

昨年度の踏査ルートに加え、PL教団敷地との境界付近（西～南西部）を踏査した（H19/6/5）。竹林がかなり拡大してきており、敷地境界のフェンス沿いや三ツ池（オガンジ池上部）周辺は密生した竹やぶとなっている。また航空写真からは、地区南部にもかなりの面積が竹林に覆われているようすがよみとれる。



また甘山古墳は、錦織公園の北東、周囲より高くこんもりとした丘の上にある前方後円墳で、明治16年に銅鏃などが出土した。甘山古墳のすぐ北側には二本松古墳とよばれる小さな円墳があり、市道川西半田線の整備の際には、これらの古墳を保存するためにトンネル工法が用いられ、古墳を現状のまま残している。

現在は一般の立ち入りが制限されていることと、史跡保全のための草刈り管理により、コナラを中心とした明るい雑木林が維持されている。調査に入った時（H19/6/5）には、林床に多くのササユリが開花しており、ワレモコウなども見られる良好な草地となっている。

踏査した地区南側には竹林がほとんど見られないが、道路をはさんだ北側は広く竹林に覆われていることが航空写真からよみとれる。



(2) 錦織公園西部地区

オオタカ保護の活動を行っている地元自治会に同行をねがい、地区南部の樹林地と錦織公園隣接地のオオタカ営巣地付近の踏査を行った（H19/3/8）。錦織公園に隣接する尾根周辺は、常緑樹がかなり生育した密生した雑木林となっていてヤマモモの大木などが見られる。航空写真からは須賀大池周辺に竹林の侵入が見られるが、踏査した尾根周辺には竹林の顕著な侵入は見られなかった。

オオタカの巣（現在は壊れている）は、錦織公園の境界フェンスのすぐ外側の松の木の上にあり、意外なほど人が近づきやすい場所であったが、特に保護策はとられていない。須賀小池の南側には農地が広がっており、オオタカの採餌場所になっていると考えられる。



(3) 東板持地区（南部）

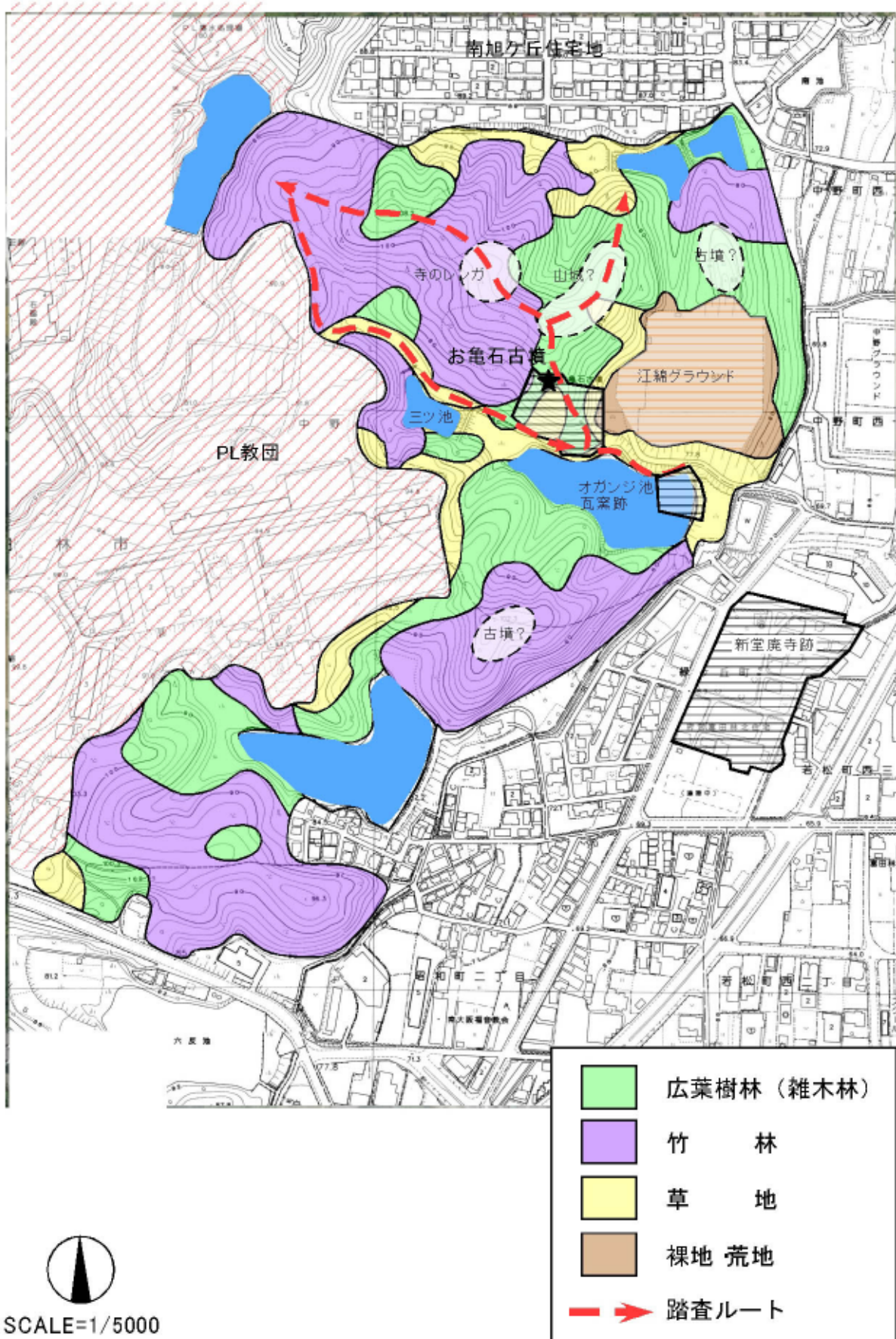
まとまった面積の緑地であるため、2回に分けて現地踏査を行った（H19/6/12, 8/14）。全体の概略としては、地区の北東から南西に走っている道路を境として、北西側は竹林やクズ草が大きな面積を占め、南東側は果樹園や造園地、谷部には良好な水田としての土地利用が見られる。その他に航空写真で草地とよみとれる場所は、ほとんどがクズで覆われた斜面と考えられ、竹林の拡大とあわせて、もとのクヌギ等の雑木林や放棄された果樹園を圧迫している。

しかしながら、東側谷部の水田沿いにはカワナやシジミの生育する水路や、林床植生の豊かな手入れされた竹林があり、良好な谷戸の風景が見られる。

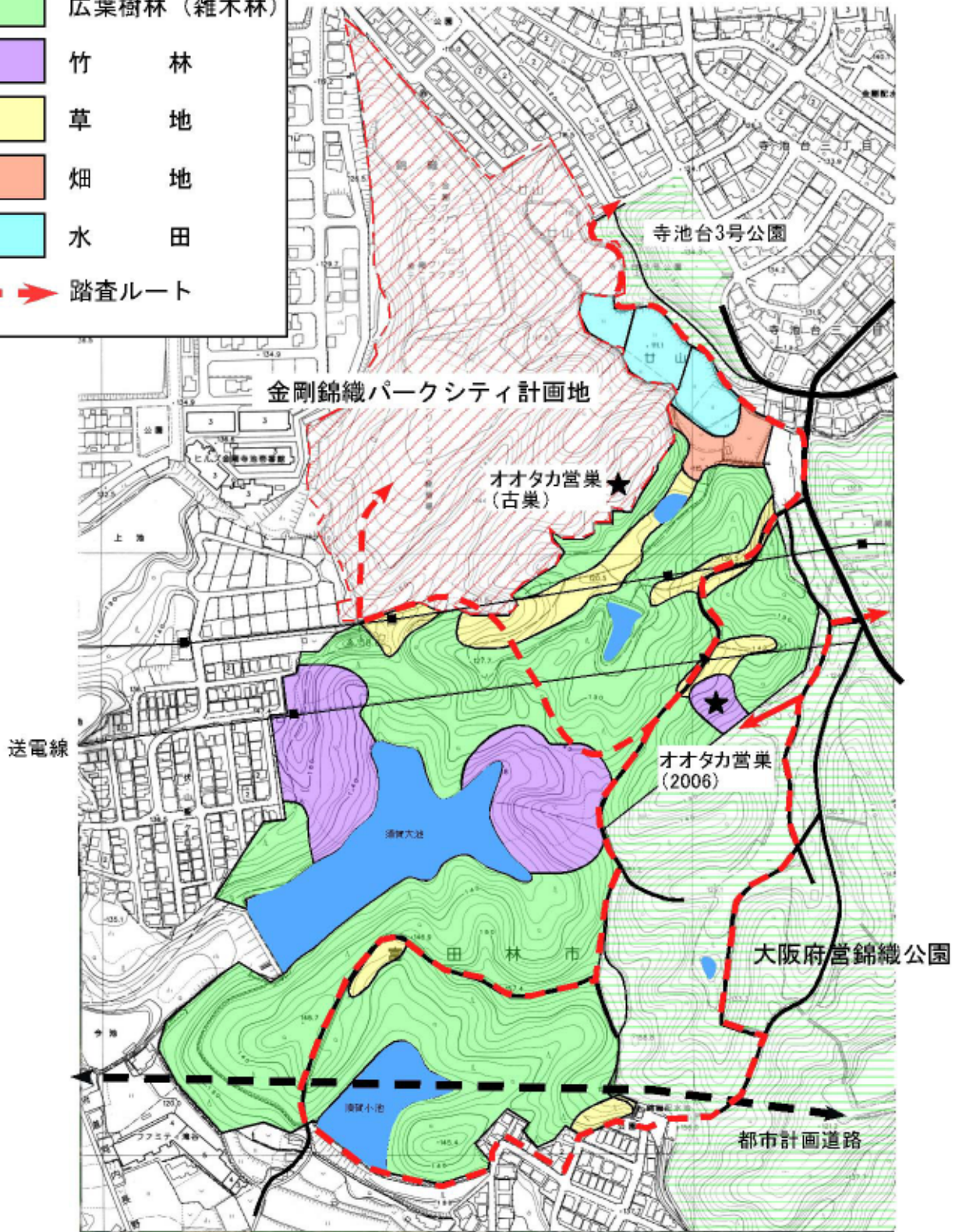
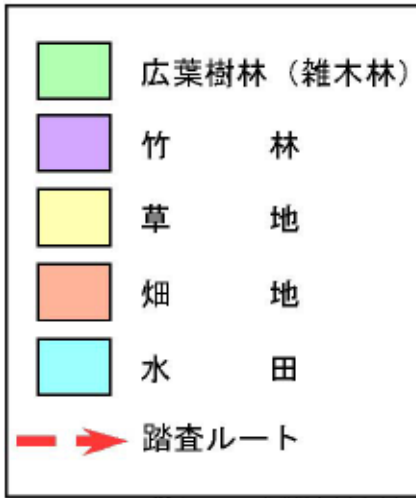
また、国道309号沿いや養鶏場側の谷部は、造成地や資材置き場等に利用されて乾燥した裸地や草地となっている。



お亀石古墳周辺地区 植生概略図

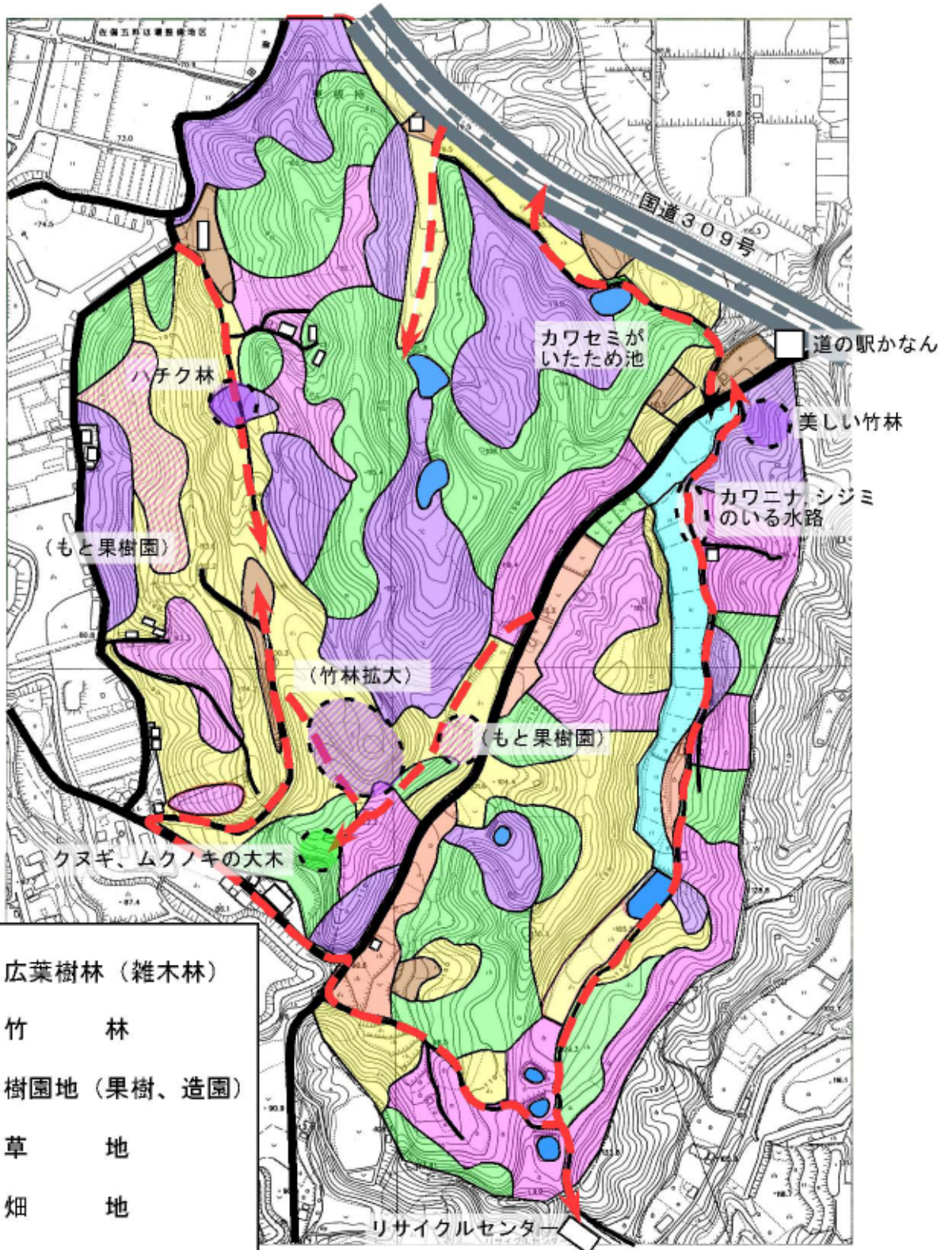


錦織公園西部地区 植生概略図



SCALE=1/5000

東板持地区（南部）植生概略図

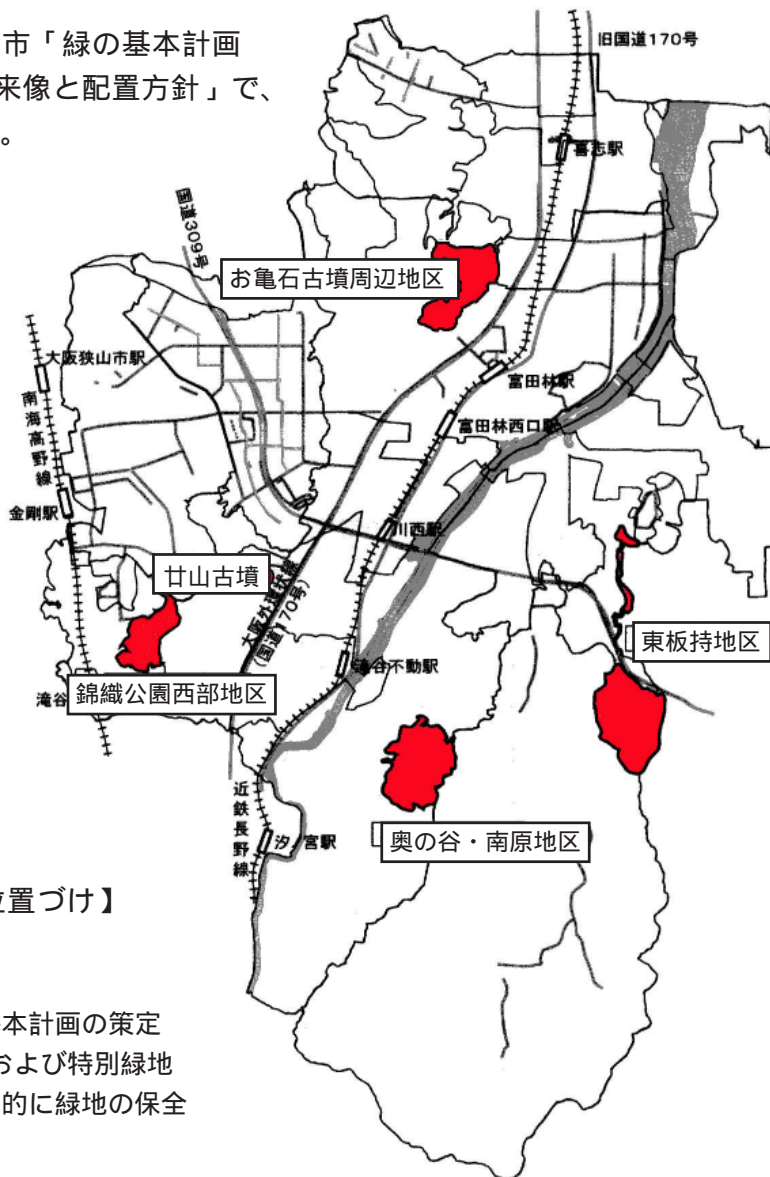


SCALE=1/5000

3 地区の保全施策の提案

(1) 「緑の基本計画」における位置づけ

本調査対象の3地区は、富田林市「緑の基本計画（H19年3月）」における「緑の将来像と配置方針」で、以下のように位置づけられている。



【富田林市緑の基本計画における位置づけ】

「保全配慮地区」

都市緑地法第4条の2の中で緑の基本計画の策定項目として定める、「緑地保全地域および特別緑地保全地区以外の区域であって、重点的に緑地の保全に配慮を加えるべき地区

地区	奥の谷・南原地区	お亀石古墳周辺地区 甘山古墳	錦織公園西部地区	東板持地区
緑のゾーニング	自然保全ゾーン	緑地ゾーン	緑地ゾーン	田園ゾーン
グルーピング	嶽山・金胎寺山の緑	歴史・文化の緑 丘陵斜面林の緑	里山の緑 丘陵斜面林の緑	農地の緑
緑の機能	環境保全系統	富田林市の自然環境を特徴づける緑		
	レクリエーション系統	富田林市の歴史・風土とふれあえる緑		—
	防災系統	土砂災害等を防ぐ 山地の緑	防災機能を有する緑	
	景観構成系統	富田林の自然景観を 特徴づける緑	富田林市の自然景観を特徴づける緑 地域の歴史・文化景観と一体となった緑	地域の歴史・文化景観と一体となった緑
重点的な取り組み	保全配慮地区 ※	重点的な公園整備	保全配慮地区 ※	保全配慮地区 ※

また、3地区の重点的な取り組みの内容については、以下のような方針が示されている。

「富田林市緑の基本計画」より抜粋

(重点的な公園整備 / 緑づくりの方針)

お亀石古墳周辺地区

お亀石古墳とオガンジ池瓦窯跡・新堂廃寺跡については、今後、市の教育委員会の主導により史跡の保存整備が行われることになっていることから、本地区の重点整備としては、これらの歴史的遺産を含むオガンジ池や周辺の斜面林の区域を史跡公園（都市計画公園）として位置づけた上で、一体的な保全・整備を進め、飛鳥時代の歴史・文化景観の復元を目指します。とくに地区内の環境整備としては、サイン・案内板や古墳等の史跡空間をネットワークする散策路や休憩スポット等の整備を行い、樹林については、雑木林の維持管理により明るい林内環境を確保するとともに、竹林の適切な密度管理と拡大防止を行うものとしします。

甘山古墳

甘山古墳は、大阪府の史跡に指定されている石川中・上流域に唯一残る古墳時代前期（4世紀後半）の前方後円墳として貴重なものであり、史跡公園としての整備を図ります。

(保全配慮地区 / 緑の保全・育成の方針)

奥の谷・南原地区

当地区を富田林市の「里山保全モデル地区」として位置づけ、地区全体を一体的な緑地として保全し、市民とのパートナーシップにもとづいて育成していくものです。プロジェクトの推進にあたっては、上記の先行調査や活動をふまえ、引き続き市民やNPOの主導の下に、市が必要な支援や制度を整えながら協働体制にもとづいた森づくりを推進します。

基本方針	保全・育成の方針
1. 要綱にもとづく市民参加の里山保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「(仮称)富田林市里山保全地区指定に関する要綱」の制定 ・要綱にもとづく樹林の保全（開発や伐採の届出制度等の導入） ・山林所有者との借地契約、覚書や協定の締結による保全管理 ・山林所有者の維持管理活動や市民活動に対する支援 ・新しい自然観察路等の整備や管理 ・市民参加による樹林地の保全管理 ・森林ボランティアやインストラクター等人材の育成 ・里山保全のための事務局の設置や新たな基金の創設等、市民参加型管理体制の確立に向けてのソフト施策の推進
2. 一体的な緑地としての里山環境のエコアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地における保護区域の設定や樹林の保全・育成 ・農林業基盤を含む里山環境の保全と活用 ・谷筋の水辺環境の保全や自然再生
3. 重要な樹林・樹林地の保全・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・景観木や良好な一団の樹林地の保護、保全・育成
4. 緑地特性を生かした緑の活動空間の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・眺望性を活かした緑の拠点や歴史資源を活かした園地の整備 ・農業・自然体験型拠点の拡充、市民農園の整備 ・谷地を生かした自然環境型拠点整備
5. 緑のネットワーク路の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・農道等兼用区間の環境改善

錦織公園西部地区

本地区は富田林市の緑の骨格を形成する「ため池を含む丘陵斜面林」であることから、ため池と一体となった貴重な樹林地を保全するとともに、緑地の環境保全等の機能を維持・増進し、適切な維持管理を推進します。とくに、地区内のオオタカの営巣地をはじめとする自然生態系の保全を重視し、隣接する錦織公園との連携を図りながら、野鳥をはじめとする生物の多様性の確保にむけて取り組みます。

基本方針	保全・育成の方針
1. 緑地機能を担保するための条例等の制度整備	・自然環境保全条例等にもとづく山林所有者との維持管理協定の締結
2. 市民参加と協働にもとづく緑地の維持管理	・市民参加による良好な樹林地形成にむけての維持・管理 ・市民参加による生物モニタリング調査の実施 ・市民と市、府等の協力関係にもとづく保全管理体制の構築
3. 地区内の自然環境保全にむけての具体的な取り組み	・動物の生息環境を含む斜面林の保全・育成 ・ため池等の水辺空間におけるエコアップと良好な自然環境の維持 ・隣接する府営錦織公園とのソフト連携・ネットワーク
4. 周辺地の開発や公共整備の適切な誘導	・自然環境や景観に配慮した周辺住宅地開発や都市計画道路等公共事業の誘導 ・工事段階における保全対象動物のモニタリング調査等の実施と必要な保全措置の実施
5. ビオトープ等の自然環境学習の場としての整備	・ため池等の水辺を生かしたビオトープ等の環境学習の場の整備 ・オオタカ等小動物生息地の保全

東板持地区

本地区においては、将来に向けて農業生産を基盤とした緑地ゾーンとして保全・育成を推進していくものとします。とくに地元農家を中心とした地域コミュニティによるまちづくり・地域づくりの一環として、農地を含む差土地・里山の緑地保全に取り組みます。

基本方針	保全・育成の方針
1. 地域ぐるみの里山保全・育成活動の推進	・里山保全活動を実施する地元住民組織の育成 ・市内NPO団体との連携にもとづく里山の保全管理体制の構築 ・地区内住民間の緑地協定や自主協定、ならびに協議会方式にもとづく地域づくりの実施と環境の変化要因への対応
2. 地区内の緑の保全にむけての具体的な取り組み	・地区内の棚田やため池、雑木林が一体となった良好な自然環境の保全・活用 ・里山管理による良好な竹林環境の形成 ・自然な小川の再生等、ホタル等の生息環境の維持と創出 ・地区南部の丘陵地における明るい雑木林の維持管理

(2) 保全配慮地区等の今後の施策方向

「緑の基本計画」の緑づくりの方針には、以下のような「富田林市里山保全地区指定に関する要綱」による施策のほか、自然観察路や拠点づくりなどの施設整備や、協働のためのソフト施策が示されている。

「富田林市里山保全地区指定に関する要綱」による施策

- ・「保全配慮地区」を「里山保全地区」に指定
- ・協定書の締結
- ・富田林の自然を守る市民運動協議会の活動による保護・育成
- ・協定奨励金、保護・育成奨励金の交付

施設整備

- ・新しい自然観察路の整備、管理
- ・緑の拠点づくり（園地、自然体験型拠点、市民農園など）
- ・農道などのネットワーク、環境改善
- ・史跡公園の整備：お亀石・甘山

協働のためのソフト施策

- ・人材育成（森林ボランティアやインストラクターなど）
- ・協働体制の確立（地元住民組織、協議会設立、事務局設置、基金創設など）
- ・生き物調査（市民参加モニタリング、保全対象生物の調査など）

このうち、要綱による施策についてはすでに制定に向けた調整が行われており、施設整備については、予算が確保できた時点で順次、整備をすすめていくこととなるが、協働のためのソフト施策については、今後とくに施策展開の工夫が必要である。その方向性については以下のような取り組みが考えられる。

人材育成

- ・里山保全ボランティアの募集と登録を行い、各保全地区で活動してもらう。
- ・インストラクター養成講座を開催し、地区内の自然ガイドや巡回管理、森づくりの技術指導などにあたる（できれば有償が望ましい）。
- ・里山管理作業の安全管理について講習会の開催や実技指導を行う。

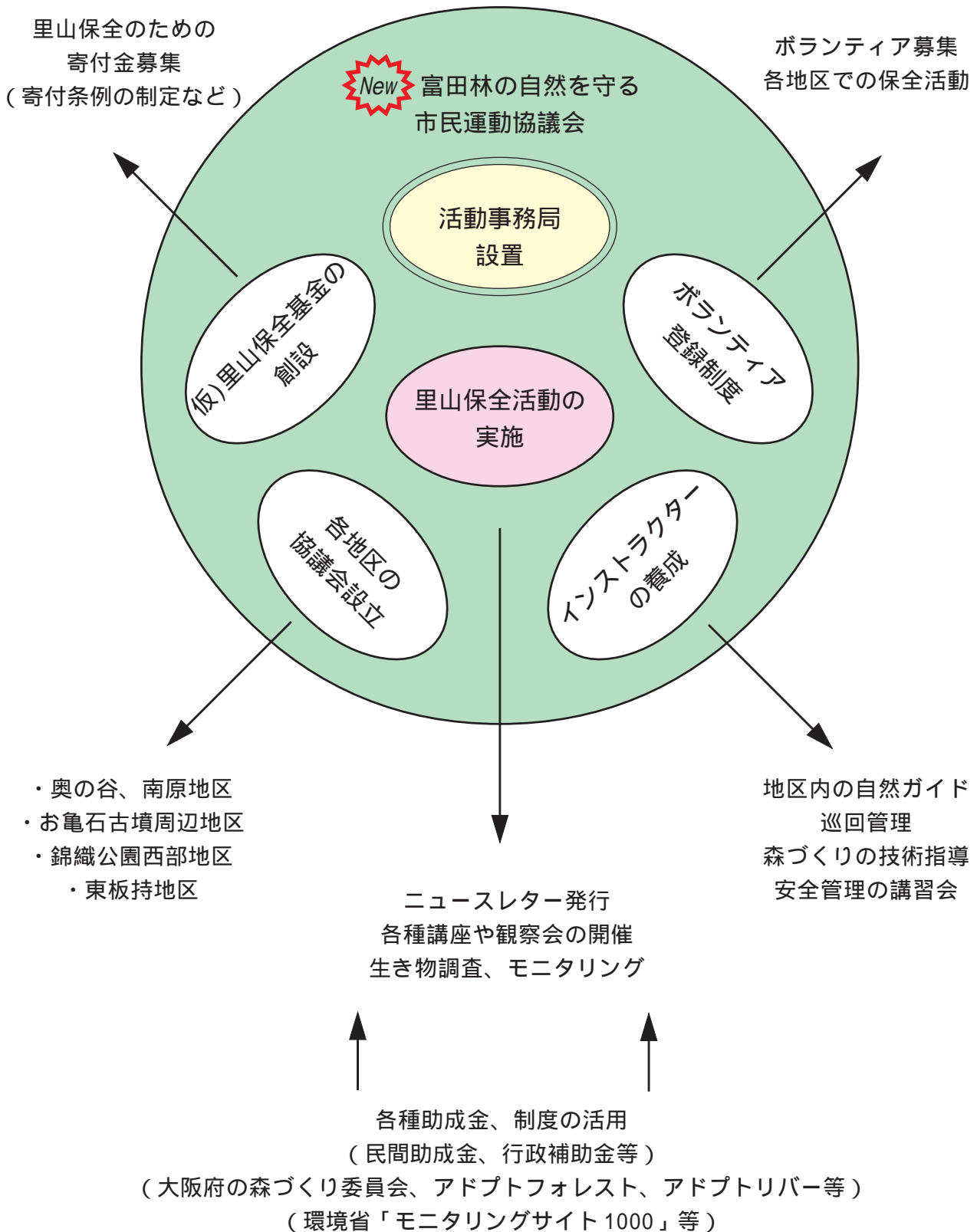
協働体制の確立

- ・各地区において、関係者が一同に会する（仮）里山保全協議会を立ち上げる。
- ex) 奥の谷南原：富田林の自然を守る会、NICE、地元自治会、山林農地所有者等
錦織公園西部：地元自治会、日本野鳥の会、富田林土木事務所、山林農地所有者等
東板持地区：地元自治会、環境保護委員会、サバーファーム、山林農地所有者等
お亀石古周辺地区：地元自治会、富田林市教育委員会、山林農地所有者など
- ・市民から里山保全のための寄付金を募って（仮）里山保全基金を創設し（協議会の特別会計として管理する等）、保全管理費用や有償活動の財源とする。
 - ・現在の「富田林の自然を守る市民運動協議会」をさらに発展させ、里山保全活動のための事務局を設置し、ニュースレターの発行、ボランティア募集、講座や観察会の企画運営などを行う。
 - ・各種の協働の制度（大阪府の森づくり委員会、アドプトフォレスト、アドプトリバー等）を活用する。

生き物調査

- ・各種の助成（民間、公共）や制度（環境省「モニタリングサイト1000」等）を活用し、市民参加による継続観察や保全対象生物（オオタカ、ホタル等）の調査を行う。

【ソフト施策の展開イメージ】



< 協議会参加団体の活動紹介 >

活動紹介) 特定非営利活動法人 里山倶楽部

里山倶楽部は、「好きなことして、そこそこ儲けて、いい里山をつくる」をコンセプトとして、里山の保全管理や環境教育に関するさまざまな事業を行なっています。会員は約300名。毎月1回の定例活動日の他に、次のような活動があります。その中の「とんびくらぶ」では、龍泉寺近くの果樹園で里山初心者が楽しみながら草刈りなどの手入れや果物の収穫などを行なっています。



竜泉の果樹園の手入れ

連続講座

里山の学校(里山基礎講座) 森林ゼミ(人工林管理) 里林班(雑木林管理)
窯の穴(炭焼師養成講座) 弘川千年の森(行政との協働事業) 里山キッズクラブ(子供対象)

自由参加活動

とんびくらぶ(山遊び・山仕事体験) タントンハン(無農薬米作り)
桜とりすの森(ニュータウンでの緑化活動) 里山バザール(里山関連商品のイベントショップ)

まちづくり・研究活動

里山バイオマス事業部(薪炭林のエネルギー化研究)

企画運営・コンサル事業

里山環境教育オフィス(ワークショップ等の受託事業) ど組(森林作業請負、炭・薪販売)

連絡先: 寺川裕子, 〒584-0024 富田林市若松町4-20-6, TEL/FAX 0721-25-3128

活動紹介) 石川あすかプランを考える市民連絡会 / 石川自然クラブ

本市民連絡会は、石川の自然環境を守ることを目的として1994年に発足しました。1999年からは市民と行政が協働して石川の整備のあり方を考えるワークショップや「石川河川公園自然ゾーン計画・運営協議会」に参加し(石川自然クラブ) 様々な活動を行なっています。

活動の内容

1. 「あすかプラン」の見直しを府に要望する: 「石川あすかプラン」を見直し、環境保全・自然保護の観点を大きく取り入れるよう、大阪府及び関係市町村に要望する。
2. 河川管理のあり方を学習する: 河川管理のあり方や自然環境保全などについて学習する。
3. 生物調査に基づき提言する: 石川に生息する生物の調査を行い、石川の自然保護について提言する。
4. 周辺住民の意見を聞く: 石川周辺住民をはじめ、多くの人々の意見を聞き、暮らしを考え、自然を守る立場から、要望や提言に反映させる。
5. 市民参加のあり方を研究する: 市民が参加できる河川公園のあり方について研究する。
6. 多くの人に賛同を呼びかける: より多くの人々に、私たちの考えを宣伝し、賛同を呼びかける。

また「石川自然クラブ」では、石川を学び、石川で遊び、石川の自然を守り育てる活動として、生きもの調査やイベント、石川流域フォーラムの開催、石川子ども自然隊などを展開しています。



地元住民と行政の協働で行った竹林伐採作業

連絡先: 笠原英俊, 〒584-0086 富田林市津々山台1-5-1, TEL/FAX 0721-29-7894

活動紹介)

竜泉・里山クラブ

竜泉・里山クラブ員募集（現在会員数 40 名）

竜泉・里山クラブは「遊び心を持って楽しみながら活動する、自己責任に於いて体力に合った活動をする」をコンセプトとして、自然環境保全と地球温暖化防止活動、里山の保全と資源の循環型利用、地域との交流をより広く深く進める、地域の子供たちに自然との関わり方を知ることにより、自然環境教育に役立てる。

活動場所 富田林市竜泉、大阪狭山市全域、千早赤坂村

活動内容 竹林及び雑木林の間伐と下草刈、植樹、竹炭・木炭焼き、竹酢液・木酢液作り、ミカン農園手伝い、竹工芸、自然材での工作、椎茸栽培、自然環境保全に関する講座及び体験学習、ミカン農園お手伝い。

主な施設 竹窯 2 基、土窯 1 基、蒸留設備 1 基、風力発電設備（出力 1.5KW）1 基、雨水浄化設備、粉炭機 1 基、ソーラ発電設備、多目的高温窯 1 基。

最近の活動 シニア自然大学体験学習受講生 28 名、金剛公民館まつり、光明池まつり、堺みどりのつどい、狭山池まつり、富田林向陽台小学校紙工作教室、狭山南第一小学校工作教室、シニア、自然カレッジ体験学習講座

活動日 毎週水曜日、第二、第四土曜日 活動時間 原則として 9:30 ~ 15:00

連絡先 箭島健雄 090・2595 - 2919 藤田貞夫 090 - 6739・0225

事務局 〒589 - 0022 大阪狭山市西山台 3 丁目 3 - 14



活動紹介)

富田林勤労者山岳会「嶽の会」の活動報告

*富田林の自然を守る市民運動協議会に参加する団体としての活動

9月9日(日)午前10時から10名の参加で、自然観察路の草刈および果樹の丘の階段修理を行った。

間伐材の皮を剥き、60cmに切断し、杭を作り、全員汗だくで、15段の階段の補修を完成させた。

*その他の活動

6月金剛山のクリーンハイキング、9月には「出会い・ふれあい・金剛山」をテーマに障害者登山。夏は北岳から農鳥岳へ白峰三山の縦走、秋の裏剣縦走、11月木曾駒ヶ岳での雪山訓練、2月には北八ヶ岳(天狗岳)で雪山を楽しむ。（自然保護担当 上角 敦彦）



活動紹介) 金剛の自然環境を守り育てる会

会の概要

会 員 数 : 地域住民 113名

活 動 : 地域自然観察、公園美化、植樹

活動状況 : 自然観察(オオタカパトロールを含む) 16回

植 樹 : 2、3号公園に実のなる低木21本 すだれ桜17本等50本

公園美化(笹刈り、落ち葉清掃): 9回

地域イベント 2回

8月 夏休み水生植物勉強ツアー(琵琶湖博物館)33名参加

1月 植樹祭 49名参加

5~12月 自然リーダー教育 9回

振り返ってみれば、しんどさがあり、またふれ合いいっぱいを感じた日々でした。

11月から住宅開発工事が始まりました。裸の丘を眺める淋しい思いの毎日です。

(文責 喜田博三)



活動紹介) 富田林の自然を守る会

協議会主催で行われた里山保全作業(富田林「里山ホリデー」)、自然観察会、昆虫ウオッチング、野草を食べる会、里山クラフト、どんど焼きともちつき、自然観察講座などを主体的に取り組みました。

協議会の主催活動以外の取り組みとしては、「タケノコ掘り」、「国際ワークキャンプ(NICEと共催;協議会は協力参加)」、「里山コンサート」の開催、「NICE週末キャンプ」、「自然環境市民大学(大阪自然環境保全協会)」、「東京海上日動火災保険株式会社 社員ボランティア@大阪府富田林市」、「若チャレ(若者の人間力を高める国民運動)」、「名古屋外国語大学 宮川ゼミ @富田林」、「保育園の遠足」などの受け入れ、水利組合に協力しての溜池の土手の草刈り、南原の栗園の手入れなどを行いました。

大阪自然環境保全協会が錦織公園<指定管理者:みどり会>から委託された里山管理に協力し、モウソウチクの伐採を中心とした「里山づくり体験講座」にスタッフを派遣しました(この事業はある事情から2007年7月中止となりました)。

連絡先: 田淵武夫

〒584-0024 富田林市若松町4-16-21

TEL/FAX 0721-24-7960



どんど焼き

活動紹介)

NICE チーム富田林

(特活)NICEは、日本、東アジアで行われている国際ワークキャンプを主催し、また海外のものを日本に紹介する団体です。より身近な活動として、一泊二日で行われる週末ワークキャンプの運営も行っています。私たちチーム富田林は、月に1度奥の谷を訪れ、手作りのみかん小屋に泊まりながら、自然を守る会の皆さんと共に里山保全活動に励んでいます。お昼はワークで汗を流し、夜はみんなで囲炉裏を囲みながら遅くまで語り合う!

(囲炉裏の燃料となっている竹炭も手作りです!)奥の谷で世代を超えた熱い交流を行っています。

2007年度の活動では、スギ、ヒノキの間伐、間伐した木を使っての遊歩道整備をはじめとし、新しく田んぼを作り、初めて田植え、稲刈り、手作業での脱穀を体験しました。また、新しく栗林の手入れも作業に加わり、自然豊かな奥の谷で四季折々の活動を楽しんでいます。2008年度からは新たにチーム制にすることで、固定メンバーを増やすと共に、より多くの方に参加してもらえるようメンバー内で工夫を凝らしていく予定です。また、活動目標としては、去年に引き続き、間伐した木を使っての遊歩道作りに力をいれ、今年こそ遊歩道整備の完成を目指したいと考えています。

連絡先：NICE 関西オフィス TEL 06-6576-0089



竹炭焼き



囲炉裏を囲んで

平成19年度事業報告

1. 役員会

4月19日(木)905会議室〔傷害・賠償保険(年間行事)加入契約、作業小屋の契約継続、年間活動計画〕、5月24日(木)905会議室〔活動報告と事業計画、自然環境保全活用調査委託契約〕、6月20日(水)903会議室〔活動報告と事業計画、自然環境活用調査〕、7月18日(水)904会議室〔活動報告と事業計画〕、8月16日(木)904会議室〔活動報告と事業計画〕、9月19日(水)904会議室〔活動報告と事業計画〕、10月17日(水)201会議室〔活動報告と事業計画〕、11月21日(水)904会議室〔活動報告と事業計画、冊子「富田林の自然」、自然環境活用調査〕、12月19日(火)904会議室〔活動報告と事業計画、冊子「富田林の自然」、自然環境活用調査〕、1月16日(水)904会議室〔活動報告と事業計画、冊子「富田林の自然」、自然環境活用調査〕、2月20日(水)201会議室〔活動報告と事業計画、冊子「富田林の自然」、自然環境活用調査〕、3月14日(金)501会議室〔活動報告と事業計画、冊子「富田林の自然」、自然環境活用調査、総会議案〕、総会 3月26日(水)庁議室

2. 自然環境保全の活動

富田林「里山ホリデー」(里山管理作業)

午前10時～午後3時 奥の谷

開催日	参加人数
① 5月27日(日)	8人
② 6月24日(日)	雨天中止
③ 9月16日(日)	8人
④ 10月28日(日)	不動尊祭礼のため中止
⑤ 11月18日(日)	5人
⑥ 12月2日(日)	3人
⑦ 1月27日(日)	15人
⑧ 2月3日(日)	雨天中止
⑨ 3月23日(日)	人

■生きもの水辺づくり 6月3日(日)午前10時～午後3時 奥の谷 参加人数8人

■自然観察路の整備 9月9日(日)午前10時～午後3時 奥の谷 参加人数10人

■チェーンソーの講習会 4月4日(水) 林業・木材製造業労働災害防止協会大阪支部主催、1人参加

3. 自然環境の観察会

9時～13時 奥の谷

開催日	行事名	参加人数
① 4月8日(日)	自然観察会	16人
② 5月6日(日)	自然観察会	雨天中止
③ 6月9日(土)	自然観察会	18人
④ 7月14日(土)	昆虫ウォッチング	雨天中止
⑤ 9月9日(日)	自然観察会	10人+3人

4 . 自然環境の講座

春の野草を食べる会 4月30日(月・振替休日)10時~15時、奥の谷、参加人数40人
自然クラフト(つる細工) 11月11日(日)10時~15時 奥の谷、参加人数13人
自然観察講座

テーマ「きのこ」講師 傍島正博氏(枚岡ネイチャークラブ,大阪自然環境保全協会理事)
10月21日(日)9時~午後13時 奥の谷 参加人数 24人

テーマ「木の実と紅葉」講師 佐藤治雄氏(大阪府立大学名誉教授,大阪自然環境保全協会副会)
11月25日(日)9時~午後13時 奥の谷、参加人数15人

テーマ「野鳥」講師石塚和子(藤陽中学校教諭) 1月19日(土)9時~午後13時
奥の谷、参加人数18人

5 . 国際ワークキャンプへの参加

8月2日~8月9日 富田林市 歓迎会8月4日(土) 外国人6人、日本人6人、その他スタッフ延べ51人の参加、ヒノキ林の間伐約30本、雑木林の下樵り約150m²。

6 . 交流会

忘年会 12月15日(土) 午前10時~午後3時 奥の谷、午前中作業、午鍋で忘年会、参加人数10人、

どんど焼きともちつき(どんど焼き、書初め、餅つき) 1月13日(日)[雨天の為1月12日(土)の予定を変更して実施]、午前10時~午後3時、奥の谷、参加人数26人。

7 . 「金剛の自然環境を守り育てる会」の事業

寺池台3号公園の樹木剪定の実施(田淵会長を講師派遣)。

7月10日(火)午前10時集合、下見を実施。

7月22日(日)午前9時集合、講習会を開催。

7月29日(日)寺池台三丁目の住民で笹刈り等を実施。

8 . 緑の基本計画の実施計画「重点的な取り組み」

重点的な公園整備

「お亀石古墳周辺地区・廿山古墳」

保全配慮地区

「奥の谷・南原地区」「錦織公園西部地区」「東板持地区」

(仮称)富田林市里山保全地区指定に関する要綱(案)の検討

9 . 冊子「富田林の自然」NO.6 発行

10 . 自然環境保全活用調査 その6

~市民が守り育てる自然豊かな里山をめざして~

緑の基本計画における「重点的な取り組み」3地区の詳細調査

お亀石古墳周辺地区・廿山古墳の調査報告

現地調査6月5日(火)午後2時~

錦織公園西部地区

東板持地区の調査報告

現地調査6月12日(火)午後2時~

現地調査8月14日(火)午前9時30分~(7月3日雨天中止のため)

奥の谷周辺の草花(被子植物草本)リスト

No.	種名	属名	学名	原産	1年草~多年草の別	観察した環境	花期	観察年	備考
被子植物双子葉合弁花									
キク科									
1	リュウノウギク	キク属	<i>Chrysanthemum makinoi</i>	在来種	多年草	林縁	10~11	1997	
2	ヨモギ	ヨモギ属	<i>Artemisia princeps Pampan.</i>	在来種	多年草	道端	9~10	1997	
3	イナカギク	シオン属	<i>Aster ageratoides</i>	在来種	多年草	林縁	9~11	1997	
4	ホウキギク	シオン属	<i>Aster subulatus</i>	在来種	多年草	道端	8~10	1997	
5	ヨメナ	シオン属	<i>Aster yomena</i>	在来種	多年草	道端	7~10	1997	
6	ハルジオン	ムカシヨモギ属	<i>Erigeron philadelphicus</i>	北アメリカ	多年草	道端	5~7	1997	**
7	ヒメジョオン	ムカシヨモギ属	<i>Erigeron annuus</i>	北アメリカ	1~2年草	道端	6~10	1997	**
8	ヒメムカシヨモギ	ムカシヨモギ属	<i>Erigeron canadensis</i>	北アメリカ	2年草	道端	8~10	1997	**
9	アレチノギク	イズハハコ属	<i>Conyza bonariensis</i>	南アメリカ	1~2年草	道端	5~10	1997	
10	オオアレチノギク	イズハハコ属	<i>Conyza sumatrensis</i>	南アメリカ	1~2年草	道端	7~10	1997	**
11	セイタカアワダチソウ	アキノキリンソウ属	<i>Solidago canadensis var. scabra</i>	北アメリカ	多年草	道端	10~11	1997	***
12	チチコグサ	ハハコグサ属	<i>Gnaphalium japonicum</i>	在来種	多年草	道端	5~10	1997	
13	チチコグサモドキ	ハハコグサ属	<i>Gnaphalium uliginosum</i>	在来種	1~2年草	道端	4~9	1997	
14	ハハコグサ	ハハコグサ属	<i>Gnaphalium affine</i>	在来種	2年草	道端	4~6	1997	
15	コヤブタバコ	ヤブタバコ属	<i>Carpesium cernuum</i>	在来種	2年草	林縁	7~9	1997	
16	ノボロギク	キオン属	<i>Senecio vulgaris</i>	在来種	1~2年草	道端	通年	1997	
17	ガンクビソウ	ヤブタバコ属	<i>Carpesium divaricatum</i>	在来種	多年草	林縁	6~10	1997	
18	サジガンクビソウ	ヤブタバコ属	<i>Carpesium glossophyllum Maxim.</i>	在来種	多年草	林縁	8~10	2007	
19	ヤブタバコ	ヤブタバコ属	<i>Carpesium abrotanoides</i>	在来種	2年草	林縁	9~10	2007	
20	フキ	フキ属	<i>Petasites japonicus</i>	在来種	多年草	林縁	3~5	1997	
21	ベニバナボロギク	ベニバナボロギク属	<i>Crassocephalum crepidioides</i>	アフリカ	1年草	道端	8~10	1997	
22	ダントボロギク	タケダグサ属	<i>Erechtites hieracifolia</i>	北アメリカ	1年草	道端	9~10	1997	
23	タカサブロウ	タカサブロウ属	<i>Eclipta prostrata</i>	在来種	1年草	湿地	8~9	1997	
24	アメリカセンダングサ	センダングサ属	<i>Bidens frondosa</i>	北アメリカ	1年草	道端	9~10	1997	**
25	コセンダングサ	センダングサ属	<i>Bidens pilosa</i>	在来種	多年草	道端	9~11	1997	**
26	センダングサ	センダングサ属	<i>Bidens biternata</i>	在来種	1年草	道端	9~10	1997	
27	サワヒヨドリ	ヒヨドリバナ属	<i>Eupatorium lindleyanum</i>	在来種	多年草	湿地	8~10	1997	
28	ヒヨドリバナ	ヒヨドリバナ属	<i>Eupatorium makinoi</i>	在来種	多年草	林縁	8~10	1997	
29	オオオナモミ	オナモミ属	<i>Xanthium occidentale</i>	メキシコ	1年草	道端	8~11	1997	**
30	ブタクサ	ブタクサ属	<i>Ambrosia artemisiifolia</i>	北アメリカ	1年草	道端	7~10	1997	**
31	ノアザミ	アザミ属	<i>Cirsium japonicum</i>	在来種	多年草	草原	5~8	1997	
32	キツネアザミ	キツネアザミ属	<i>Last modified</i>	在来種	2年草	道端	5~6	2007	
33	カンサイタンポポ	タンポポ属	<i>Taraxacum japonicum</i>	在来種	多年草	草原	4~5	1997	
34	シロバナタンポポ	タンポポ属	<i>Taraxacum albidum</i>	在来種	多年草	道端	4~5	1997	
35	セイヨウタンポポ	タンポポ属	<i>Taraxacum officinale</i>	ヨーロッパ	多年草	道端	3~9	1997	**
36	ブタナ	エゾコウゾリナ属	<i>Hypochaeris radicata</i>	ヨーロッパ	多年草	道端	6~9	1997	**
37	コウゾリナ	コウゾリナ属	<i>Picris hieracioides</i>	在来種	多年草	道端	5~10	1997	
38	イワニガナ(ジシバリ)	ニガナ属	<i>Ixeris stolonifera</i>	在来種	多年草	林縁	4~6	1997	
39	オオジシバリ	ニガナ属	<i>Ixeris debilis</i>	在来種	多年草	林縁	4~5	1997	
40	ニガナ	ニガナ属	<i>Ixeris dentata</i>	在来種	多年草	林縁	5~7	1997	
41	オニタビラコ	オニタビラコ属	<i>Youngia japonica</i>	在来種	多年草	道端	5~10	1997	
42	コオニタビラコ	オニタビラコ属	<i>Lapsana apogonoides</i>	在来種	2年草	湿地	3~5	1997	
43	ヤクシソウ	オニタビラコ属	<i>Youngia denticulata</i>	在来種	1~2年草	道端	8~11	1997	
44	オニノゲシ	ノゲシ属	<i>Sonchus asper</i>	ヨーロッパ	2年草	道端	4~10	1997	
45	ノゲシ(ハルノノゲシ)	ノゲシ属	<i>Sonchus oleraceus</i>	在来種	2年草	道端	4~7	1997	
46	アキノノゲシ	アキノノゲシ属	<i>Lactuca indica var. laciniata</i>	在来種	1~2年草	道端	8~11	1997	
47	ホソバアキノノゲシ	アキノノゲシ属	<i>Lactuca indica f. indivisa</i>	在来種	1~2年草	道端	8~11	1997	
48	ムラサキニガナ	アキノノゲシ属	<i>Lactuca scariola</i>	在来種	多年草	林床	6~8	1997	
キキョウ科									
49	キキョウソウ	キキョウソウ属	<i>Specularia perfoliata</i>	北アメリカ	1年草	道端	5~7	1997	
50	ホタルブクロ	ホタルブクロ属	<i>Campanula punctata Lam.</i>	在来種	多年草	林縁	6~7	1997	
51	ミゾカクシ	ミゾカクシ属	<i>Lobelia chinensis</i>	在来種	多年草	湿地	6~10	2006	
52	ツリガネニンジン	ツリガネニンジン属	<i>Adenophora triphylla</i>	在来種	多年草	草原	8~10	1997	
ウリ科									
53	カラスウリ	カラスウリ属	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	在来種	多年草	林縁	8~9	1997	
54	スズメウリ	スズメウリ属	<i>Melothria japonica</i>	在来種	1年草	林縁	8~9	1997	
55	アレチウリ	アレチウリ属	<i>Sicyos angulatus</i>	北アメリカ	1年草	道端	8~9	1997	****
オミナエシ科									
56	オミナエシ	オミナエシ属	<i>Patrinia scabiosifolia</i>	在来種	多年草	草原	8~10	1997	
アカネ科									
57	アカネ	アカネ属	<i>Rubia argyi</i>	在来種	多年草	道端	8~10	1997	
58	ヒメヨツバムグラ	ヤエムグラ属	<i>Galium gracilens</i>	在来種	多年草	道端	5~6	1998	
59	ヤエムグラ	ヤエムグラ属	<i>Galium spurium var. echinospermon</i>	在来種	2年草	道端	5~6	1997	
60	ヘクソカズラ	ヘクソカズラ属	<i>Paederia scandens</i>	在来種	多年草	林縁	8~9	1997	
61	ツルアリドオシ	ツルアリドオシ属	<i>Mitchella unbulata</i>	在来種	多年草	林床	6~7	1997	

No.	種名	属名	学名	原産	1年草～多年草の別	観察した環境	花期	観察年	備考
オオバコ科									
62	オオバコ	オオバコ属	<i>Plantago asiatica</i>	在来種	多年草	道端	4～9	1997	
63	ツボミオオバコ	オオバコ属	<i>Plantago virginica</i>	北アメリカ	1～2年草	道端	5～8	1997	
キツネノマゴ科									
64	キツネノマゴ	キツネノマゴ属	<i>Justicia procumbens</i>	在来種	1年草	道端	8～10	1997	
ゴマノハグサ科									
65	マツバウンラン	ウンラン属	<i>Linaria canadensis</i>	北アメリカ	1～2年草	道端	4～5	2007	
66	タチイヌノフグリ	クワガタソウ属	<i>Veronica arvensis</i>	ユーラシア	2年草	道端	4～6	2002	
67	オオイヌノフグリ	クワガタソウ属	<i>Veronica persica</i>	ヨーロッパ	2年草	道端	3～5	1997	
68	トキワハゼ	サギゴケ属	<i>Mazus pumilus</i>	在来種	1年草	道端	4～11	1997	
69	ムラサキサギゴケ	サギゴケ属	<i>Mazus miquelii</i>	在来種	多年草	林縁	4～5	1997	
ナス科									
70	ヒヨドリジョウゴ	ナス属	<i>Solanum lyratum</i>	在来種	多年草	林縁	8～9	1997	
71	アメリカイヌホウズキ	ナス属	<i>Solanum americanum</i>	北アメリカ	1年草	道端	7～9	1997	
72	ワルナスビ	ナス属	<i>Solanum carolinense</i>	北アメリカ	多年草	道端	6～10	1997	**
シソ科									
73	アキノタムラソウ	アキギリ属	<i>Salvia japonica</i>	在来種	多年草	草原	7～11	1997	
74	イヌコウジュ	イヌコウジュ属	<i>Mosla punctulata</i>	在来種	1年草	湿地	9～10	1997	
75	ウツボグサ	ウツボグサ属	<i>Prunella vulgaris subsp. asiatica</i>	在来種	多年草	草原	6～8	1997	
76	ホトケノザ	オドリコソウ属	<i>Lamium amplexicaule L.</i>	在来種	2年草	道端	3～6	1997	
77	ヒメオドリコソウ	オドリコソウ属	<i>Lamium purpureum</i>	ヨーロッパ	2年草	道端	4～5	1997	
78	カキドオシ	カキドオシ属	<i>Glechoma hederacea subsp. grandis</i>	在来種	多年草	道端	4～5	1997	
79	キランソウ	キランソウ属	<i>Ajuga decumbens</i>	在来種	多年草	林縁	3～5	1997	
80	タツナミソウ	タツナミソウ属	<i>Scutellaria indica</i>	在来種	多年草	草原	5～6	1997	
81	クルマバナ	トウバナ属	<i>Clinopodium chinense var. arviliflorum</i>	在来種	多年草	道端	8～9	1997	
82	トウバナ	トウバナ属	<i>Clinopodium gracile</i>	在来種	多年草	道端	5～8	1997	
83	ハッカ	ハッカ属	<i>Mentha arvensis var. piperascens</i>	在来種	多年草	林縁	8～10	1997	
84	ヤマハッカ	ヤマハッカ属	<i>Plectranthus inflexus</i>	在来種	多年草	道端	9～10	2007	
クマツヅラ科									
85	アレチハナガサ	クマツヅラ属	<i>Verbena brasiliensis Vell.</i>	南アメリカ	多年草	道端	6～9	1997	
86	ヤナギハナガサ	クマツヅラ属	<i>Verbena bonariensis L.</i>	南アメリカ	多年草	道端	6～9	1997	
ムラサキ科									
87	キュウリグサ	キュウリグサ属	<i>Trigonotis peduncularis</i>	在来種	多年草	道端	3～5	1997	
ヒルガオ科									
88	コヒルガオ	ヒルガオ属	<i>Calystegia hederacea</i>	在来種	多年草	道端	6～8	1997	
89	ヒルガオ	ヒルガオ属	<i>Calystegia japonica</i>	在来種	多年草	道端	6～8	1997	
90	ホシアサガオ	サツマイモ属	<i>Ipomoea triloba L.</i>	南アメリカ	1年草	道端	7～9	1997	
ガガイモ科									
91	ガガイモ	ガガイモ属	<i>Metaplexis japonica</i>	在来種	多年草	道端	8	2007	
リンドウ科									
92	リンドウ	リンドウ属	<i>Gentiana scabra var. buergeri</i>	在来種	多年草	草原	9～11	1997	
93	センブリ	センブリ属	<i>Swertia japonica</i>	在来種	1～2年草	林縁	8～11	1997	
94	ツルリンドウ	ツルリンドウ属	<i>Tripterospermum japonicum</i>	在来種	多年草	林床	8～10	1997	
サクランソウ科									
95	コナスビ	オカトラノオ属	<i>Lysimachia japonic</i>	在来種	多年草	道端	5～6	2002	
96	オカトラノオ	オカトラノオ属	<i>Lysimachia clethroides</i>	在来種	多年草	林縁	6～7	1997	
97	ヌマトラノオ	オカトラノオ属	<i>Lysimachia fortunei</i>	在来種	多年草	湿地	7～8	2003	
被子植物双子葉離弁花									
セリ科									
98	ノダケ	シンウド属	<i>Angelica decursiva</i>	在来種	多年草	林縁	9～11	2007	
99	セリ	セリ属	<i>Oenanthe javanica</i>	在来種	多年草	湿地	7～8	1997	
100	チドメグサ	チドメグサ属	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	在来種	多年草	道端	6～10	2003	
101	オヤブジラミ	ヤブジラミ属	<i>Torilis scabra</i>	在来種	2年草	林縁	5～7	1997	
102	ヤブジラミ	ヤブジラミ属	<i>Torilis japonica</i>	在来種	2年草	林縁	5～7	1997	
103	ヤブニンジン	ヤブニンジン属	<i>Osmorhiza aristata</i>	在来種	多年草	林縁	4～5	1997	
アカバナ科									
104	ヒレタゴボウ	チョウジタデ属	<i>Ludwigia decurrens</i>	北アメリカ	1年草	道端	8～10	1997	
105	オオマツヨイグサ	マツヨイグサ属	<i>Oenothera erythrosepala</i>	北アメリカ	2年草	道端	7～9	1998	
106	アレチマツヨイグサ	マツヨイグサ属	<i>Oenothera biennis L.</i>	北アメリカ	1～2年草	道端	6～9	1997	
107	メマツヨイグサ	マツヨイグサ属	<i>Oenothera biennis L.</i>	北アメリカ	2年草	道端	6～9	1997	**
108	コマツヨイグサ	マツヨイグサ属	<i>Oenothera laciniata</i>	北アメリカ	2年草	道端	5～10	1997	**
ヒシ科									
109	ヒシ	ヒシ属	<i>Trapa japonica</i>	在来種	1年草	湿地	7～10	2007	
スミレ科									
110	コスミレ	スミレ属	<i>Viola japonica</i>	在来種	多年草	林縁	3～4	2007	
111	ノジスミレ	スミレ属	<i>Viola yedoensis</i>	在来種	多年草	道端	3～4	2007	

No.	種名	属名	学名	原産	1年草～多年草の別	観察した環境	花期	観察年	備考
112	スマレ	スマレ属	<i>Viola mandshurica</i>	在来種	多年草	道端	4～5	1997	
113	タチツボスマレ	スマレ属	<i>Viola grypoceras</i>	在来種	多年草	道端	4～5	1997	
114	シハイスミレ	スマレ属	<i>Viola violacea</i>	在来種	多年草	林床	4～5	1997	
オトギリソウ科									
115	コケオトギリ	ヒメオトギリソウ属	<i>Hypericum laxum</i>	在来種	1年草	湿地	7～9	1997	
116	オトギリソウ	オトギリソウ属	<i>Hypericum erectum</i>	在来種	多年草	林縁	7～9	1997	
トウダイグサ科									
117	オオニシキソウ	ニシキソウ属	<i>Euphorbia maculata</i>	北アメリカ	1年草	道端	6～11	1997	
118	コニシキソウ	ニシキソウ属	<i>Chamaesyce maculata</i>	北アメリカ	1年草	道端	6～9	1997	
ブドウ科									
119	ヤブガラシ	ヤブガラシ属	<i>Cayratia japonica</i>	在来種	多年草	道端	6～8	1997	
120	ノブドウ	ノブドウ属	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	在来種	多年草	林縁	7～8	1997	
ツリフネソウ科									
121	ツリフネソウ	ツリフネソウ属	<i>Impatiens textorii</i> Miq.	在来種	1年草	湿地	8～10	2007	
マメ科									
122	クズ	クズ属	<i>Pueraria lobata</i>	在来種	多年草	林縁	7～9	1997	
123	ヤブツルアズキ	アズキ属	<i>Azuki angularis</i> var.	在来種	多年草	林縁	8～10	1997	
124	ゲンゲ(レンゲソウ)	ゲンゲ属	<i>Astragalus sinicus</i>	中国	2年草	道端	4～6	1997	
125	コメツブツメクサ	シャジクソウ属	<i>Trifolium dubium</i>	ヨーロッパ	1年草	道端	5～7	1997	
126	シロツメクサ	ジャジクソウ属	<i>Trifolium repens</i>	ヨーロッパ	多年草	道端	5～8	1997	
127	ムラサキツメクサ	シャジクソウ属	<i>Trifolium pratense</i>	ヨーロッパ	多年草	道端	5～8	1997	
128	カラスノエンドウ	ソラマメ属	<i>Vicia angustifolia</i>	在来種	2年草	道端	3～6	1997	
129	スズメノエンドウ	ソラマメ属	<i>Vicia hirsuta</i>	在来種	1～2年草	道端	4～6	1997	
130	ナヨクサフジ	ソラマメ属	<i>Vicia dasycarpa</i>	ヨーロッパ	多年草	道端	3～7	1997	
131	トキリマメ	タンキリマメ属	<i>Rhynchosia acuminatifolia</i>	在来種	多年草	林縁	7～9	1997	
132	ヌスビトハギ	ヌスビトハギ属	<i>Desmodium podocarpum</i> subsp.	在来種	多年草	林縁	7～9	1997	
133	アレチヌスビトハギ	ヌスビトハギ属	<i>Desmodium paniculatum</i>	アメリカ	多年草	道端	7～9	1997	
134	ノアズキ	ノアズキ属	<i>Dunbaria villosa</i>	在来種	多年草	道端	8～9	1997	
135	ノササゲ	ノササゲ属	<i>Dumasia truncata</i>	在来種	多年草	林縁	8～9	2007	
136	メドハギ	ハギ属	<i>Lespedeza cuneata</i>	在来種	多年草	道端	8～10	1997	
137	ヤハズソウ	ハギ属	<i>Lespedeza striata</i>	在来種	1年草	道端	8～10	1997	
138	ヤブマメ	ヤブマメ属	<i>Amphicarpea edgeworthii</i> var.	在来種	多年草	林縁	9～10	1997	
フウロソウ科									
139	ゲンノショウコ	フウロソウ属	<i>Geranium thunbergii</i>	在来種	多年草	草原	7～10	1997	
140	ヤワゲフウロ	フウロソウ属	<i>Geranium molle</i> L.	ヨーロッパ	1年草	道端	4～6	2007	
141	アメリカフウロ	フウロソウ属	<i>Geranium carolinianum</i>	北アメリカ	1年草	道端	5～9	1997	
カタバミ科									
142	カタバミ	カタバミ属	<i>Oxalis corniculata</i> L.	在来種	多年草	道端	5～7	1997	
143	ムラサキカタバミ	カタバミ属	<i>Oxalis corymbosa</i> DC.	南アメリカ	多年草	道端	5～7	1997	**
バラ科									
144	キジムシロ	キジムシロ属	<i>Potentilla fragarioides</i>	在来種	多年草	道端	4～5	2003	
145	オヘビイチゴ	キジムシロ属	<i>Potentilla sundaica</i>	在来種	多年草	道端	5～6	1997	
146	キンミズヒキ	キンミズヒキ属	<i>Agrimonia pilosa</i>	在来種	多年草	草原	7～10	1997	
147	ダイコンソウ	ダイコンソウ属	<i>Geum japonicum</i>	在来種	多年草	林縁	6～8	2007	
148	ヘビイチゴ	ヘビイチゴ属	<i>Duchesnea chrysantha</i>	在来種	多年草	道端	4～6	1997	
149	ワレモコウ	ワレモコウ属	<i>Sanguisorba officinalis</i>	在来種	多年草	草原	8～10	1997	
ユキノシタ科									
150	ユキノシタ	ユキノシタ属	<i>Saxifraga stolonifera</i>	在来種	多年草	道端	5～6	2006	
151	ネコノメソウ	ネコノメソウ属	<i>Chrysosplenium grayanum</i>	在来種	多年草	道端	4～5	2007	
ベンケイソウ科									
152	コモチマンネングサ	キリンソウ属	<i>Sedum bulbiferum</i>	在来種	多年草	道端	5～6	2006	
アブラナ科									
153	セイヨウカラシナ	アブラナ属	<i>Brassica juncea</i>	ソ連(栽培)	2年草	道端	4～5	1998	
154	スカシタゴボウ	イヌガラシ属	<i>Rorippa islandica</i>	在来種	2年草	道端	4～10	1998	
155	イヌガラシ	イヌガラシ属	<i>Rorippa indica</i>	在来種	多年草	道端	4～9	1997	
156	オオアラセイトウ	オオアラセイトウ属	<i>Orychophragmus violaceus</i>	中国	2年草	道端	3～5	2002	
157	タネツケバナ	タネツケバナ属	<i>Cardamine scutata</i>	在来種	2年草	湿地	4～6	1997	
158	ナズナ	ナズナ属	<i>Capsella bursa-pastoris</i>	在来種	2年草	道端	3～6	1997	
159	マメゲンバイナズナ	マメゲンバイナズナ属	<i>Lepidium virginicum</i>	北アメリカ	2年草	道端	5～6	1997	
ケシ科									
160	ムラサキケマン	ケマン属	<i>Corydalis incisa</i>	在来種	2年草	林縁	4～6	1997	
キンボウゲ科									
161	キツネノボタン	キンボウゲ属	<i>Ranunculus slerifolius</i>	在来種	多年草	湿地	4～7	2007	
162	ウマノアシガタ	キンボウゲ属	<i>Ranunculus japonicus</i>	在来種	多年草	草原	4～5	1997	
163	センニンソウ	センニンソウ属	<i>Clematis terniflora</i>	在来種	多年草	道端	8～9	1997	
164	ヒメウズ	ヒメウズ属	<i>Semiaquilegia adoxoides</i>	在来種	多年草	草原	3～5	1997	

No.	種名	属名	学名	原産	1年草～多年草の別	観察した環境	花期	観察年	備考
ナデシコ科									
165	ウシハコベ	ウシハコベ属	<i>Myosoton aquaticum</i>	在来種	多年草	湿地	4～10	1997	
166	ノミノフスマ	ハコベ属	<i>Stellaria alsine var. undulata</i>	在来種	1～2年草	道端	4～10	2007	
167	ハコベ	ハコベ属	<i>Stellaria neglecta</i>	在来種	1～2年草	道端	3～9	1997	
168	ミナグサ	ミナグサ属	<i>Cerastium fontanum</i>	在来種	2年草	道端	4～6	1997	
169	オランダミナグサ	ミナグサ属	<i>Cerastium glomeratum</i>	ヨーロッパ	2年草	道端	4～5	1997	
ヤマゴボウ科									
170	ヨウシュヤマゴボウ	ヤマゴボウ属	<i>Phytolacca americana L.</i>	北アメリカ	多年草	道端	6～9	1997	
ヒユ科									
171	ヒナタイノコヅチ	イノコヅチ属	<i>Achyranthes bidentata var. tomentosa</i>	在来種	多年草	道端	8～9	1997	
172	ヒカゲイノコヅチ	イノコヅチ属	<i>Achyranthes bidentata var. japonica</i>	在来種	多年草	林縁	8～9	1997	
173	アオゲイトウ	ヒユ属	<i>Amaranthus retroflexus L.</i>	北アメリカ	1年草	道端	7～11	1997	
アカザ科									
174	アカザ	アカザ属	<i>Chenopodium album var. centrorubrum</i>	在来種	1年草	道端	9～10	1997	
タデ科									
175	オオイスタデ	イスタデ属	<i>Persicaria lapathifolia ssp. nodosa</i>	在来種	1年草	湿地	6～11	1997	
176	ボントクタデ	イスタデ属	<i>Persicaria pubescens</i>	在来種	1年草	湿地	9～10	1997	
177	ママコノシリヌグイ	イスタデ属	<i>Persicaria senticosa</i>	在来種	1年草	湿地	5～10	1997	
178	ハナタデ	イスタデ属	<i>Persicaria yokusaiana</i>	在来種	1年草	道端	8～10	2007	
179	イシミカワ	イスタデ属	<i>Polygonum perfoliatum</i>	在来種	1年草	湿地	7～10	2007	
180	イスタデ	イスタデ属	<i>Polygonum longisetum</i>	在来種	1年草	湿地	6～10	1997	
181	スイバ	ギンギシ属	<i>Rumex acetosa</i>	在来種	多年草	草原	5～8	1997	
182	ギンギシ	ギンギシ属	<i>Rumex japonicus</i>	在来種	多年草	道端	6～8	1997	
183	アレチギンギシ	ギンギシ属	<i>Rumex conglomeratus</i>	ユーラシア	多年草	道端	6～10	1997	
184	イタドリ	ソバカズラ属	<i>Fallopia japonica</i>	在来種	多年草	林縁	7～10	1997	
185	ミゾソバ	タデ属	<i>Polygonum thunbergii</i>	在来種	1年草	湿地	7～10	1997	
186	ヤノネグサ	タデ属	<i>Polygonum nipponense</i>	在来種	1年草	湿地	9～10	1997	
187	ミズヒキ	ミズヒキ属	<i>Antenoron filiforme</i>	在来種	多年草	道端	8～10	1997	
クワ科									
188	カナムグラ	カラハナソウ属	<i>Humulus japonicus</i>	在来種	1年草	道端	8～10	1997	
イラクサ科									
189	ヤブマオ	カラムシ属	<i>Boehmeria longispica</i>	在来種	多年草	林縁	8～10	2007	
190	カラムシ	カラムシ属	<i>Boehmeria nivea var. nippononivea</i>	在来種	多年草	道端	7～9	1997	
ドクダミ科									
191	ドクダミ	ドクダミ属	<i>Houttuynia cordata</i>	在来種	多年草	道端	6～7	1997	
被子植物単子葉									
ラン科									
192	ネジバナ	ネジバナ属	<i>Spiranthes sinensis</i>	在来種	多年草	道端	5～8	1997	
193	コクラン	クモキリソウ属	<i>Liparis nervosa</i>	在来種	多年草	林床	6～7	2007	○
194	シュンラン	シュンラン属	<i>Cymbidium goeringii</i>	在来種	多年草	林床	3～4	2007	
アヤメ科									
195	シャガ	アヤメ属	<i>Iris japonica</i>	在来種	多年草	林縁	4～5	1997	
196	ニワゼキショウ	ニワゼキショウ属	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>	北アメリカ	多年草	道端	5～6	1997	
ヤマノイモ科									
197	オニドコロ	ヤマノイモ属	<i>Dioscorea tokoro</i>	在来種	多年草	林縁	7～8	1997	
198	ヤマノイモ	ヤマノイモ属	<i>Dioscorea japonica</i>	在来種	多年草	林縁	7～8	1997	
ヒガンバナ科									
199	ヒガンバナ	ヒガンバナ属	<i>Lycoris radiata</i>	在来種	多年草	草原	9	1997	
ユリ科									
200	ウバユリ	ウバユリ属	<i>Cardiocrinum cordatum</i>	在来種	多年草	林縁	7～8	2006	
201	ノシラン	ジャノヒゲ属	<i>Ophiopogon jaburan</i>	在来種	多年草	林床	7～9	2007	○
202	ジャノヒゲ	ジャノヒゲ属	<i>Ophiopogon japonicus</i>	在来種	多年草	林床	7～8	1997	
203	ショウジョウバカマ	ショウジョウバカマ属	<i>Heloniopsis orientalis</i>	在来種	多年草	林床	3～4	1997	
204	ホウチャクソウ	チゴユリ属	<i>Disporum sessile</i>	在来種	多年草	林縁	4～5	2007	
205	チゴユリ	チゴユリ属	<i>Disporum smilacinum</i>	在来種	多年草	林床	4～6	1997	
206	ツルボ	ツルボ属	<i>Scolla scilloides</i>	在来種	多年草	草原	8～9	1997	
207	ノビル	ネギ属	<i>Allium macrostemon</i>	在来種	多年草	道端	5～6	2006	
208	ノギラン	ノギラン属	<i>Metanartheicum luteo-viride</i>	在来種	多年草	林床	6～8	1997	
209	ヤマホトギス	ホトギス属	<i>Tricyrtis macropoda</i>	在来種	多年草	林床	7～9	2007	○○
210	ヤマジノホトギス	ホトギス属	<i>Tricyrtis affinis</i>	在来種	多年草	林床	8～10	1997	
211	ヤブラン	ヤブラン属	<i>Liriope muscari</i>	在来種	多年草	林縁	8～10	1997	
212	ササユリ	ユリ属	<i>Lilium japonicum</i>	在来種	多年草	林床	6～7	1997	
213	タカサゴユリ	ユリ属	<i>Lilium formosanum</i>	台湾	多年草	林縁	8～9	1997	
イグサ科									
214	イグサ	イグサ属	<i>Juncus effusus</i>	在来種	多年草	湿地	6～9	2007	
215	クサイ	イグサ属	<i>Juncus tenuis</i>	在来種	多年草	道端	6～9	1997	

No.	種名	属名	学名	原産	1年草～多年草の別	観察した環境	花期	観察年	備考
216	スズメノヤリ	スズメノヤリ属	<i>Luzula capitata</i>	在来種	多年草	道端	4～5	1997	
ツククサ科									
217	イボクサ	イボクサ属	<i>Murdannia keisak</i>	在来種	1年草	湿地	8～10	2002	
218	ツククサ	ツククサ属	<i>Commelina communis</i>	在来種	1年草	湿地	6～9	1997	
219	ヤブミョウガ	ヤブミョウガ属	<i>Pollia japonica</i>	在来種	多年草	林床	8～9	2007	
ミズアオイ科									
220	コナギ	ミズアオイ属	<i>Monochoria vaginalis</i>	在来種	1年草	湿地	9～10	2007	
ショウブ科									
221	ショウブ	ショウブ属	<i>Acorus calamus</i>	在来種	多年草	湿地	5～7	2003	
サトイモ科									
222	カラスビシャク	ハンゲ属	<i>Pinellia ternata</i>	在来種	多年草	林床	5～8	2004	
オモダカ科									
223	サジオモダカ	サジオモダカ属	<i>Alisma plantago-aquatica</i>	在来種	多年草	湿地	6～10	2007	
ガマ科									
224	ガマ	ガマ属	<i>Typha latifolia</i>	在来種	多年草	湿地	6～8	1997	
カヤツリグサ科									
225	タマガヤツリ	カヤツリグサ属	<i>Cyperus difformis</i>	在来種	1年草	湿地	8～10	2002	
226	コゴメカヤツリ	カヤツリグサ属	<i>Cyperus iria</i>	在来種	1年草	湿地	8～10	1997	
227	カサスゲ	スゲ属	<i>Carex dispalata</i>	在来種	多年草	湿地	4～7	1997	
228	ナキリスゲ	スゲ属	<i>Carex lenta</i>	在来種	多年草	道端	8～10	1997	
229	ヤマイ	テンツキ属	<i>Fimbristylis subspicata</i>	在来種	多年草	湿地	7～10	1997	
230	ヒメグ	ヒメグ属	<i>Cyperus brevifolius</i>	在来種	多年草	道端	7～10	1997	
231	カンガレイ	ホタルイ属	<i>Scirpus triangulatus</i>	在来種	多年草	湿地	8～10	2007	
232	サンカクイ	ホタルイ属	<i>Schoenoplectus triquetet</i>	在来種	多年草	湿地	7～10	2002	
233	ホタルイ	ホタルイ属	<i>Scirpus hotarui</i>	在来種	1年草	湿地	7～10	2002	
イネ科									
234	スズメノカタビラ	イチゴツナギ属	<i>Poa annua</i>	在来種	1～2年草	道端	3～11	1998	
235	イヌビエ	イヌビエ属	<i>Echinochloa oryzicola</i>	在来種	1年草	道端	8～10	1997	
236	ウシケンカルカヤ	ウシクサ属	<i>Andropogon virginicus</i>	北アメリカ	多年草	道端	9～11	1997	**
237	アキノエノコログサ	エノコログサ属	<i>Setaria faberi</i>	在来種	1年草	道端	8～11	1997	
238	エノコログサ	エノコログサ属	<i>Setaria viridis</i>	在来種	1年草	道端	8～11	1997	
239	キンエノコロ	エノコログサ属	<i>Setaria glauca</i>	在来種	1年草	道端	8～10	1997	
240	ムギクサ	オオムギ属	<i>Hordeum murinum</i>	ユーラシア	1～2年草	道端	5～8	1997	
241	オヒシバ	オヒシバ属	<i>Eleusine indica</i>	在来種	1年草	道端	8～10	1997	
242	カズノコグサ	カズノコグサ属	<i>Beckmannia syzigachne</i>	在来種	1～2年草	道端	6～7	1998	
243	カニツリグサ	カニツリグサ属	<i>Trisetum bifidum</i>	在来種	多年草	道端	5～6	1998	
244	カモジグサ	カモジグサ属	<i>Agropyron tsukushiense</i>	在来種	多年草	道端	5～7	1998	
245	ヒメコバンソウ	コバンソウ属	<i>Briza minor</i>	ヨーロッパ	1年草	道端	5～7	1997	
246	コブナグサ	コブナグサ属	<i>Arthraxon hispidus Mak.</i>	在来種	1年草	湿地	9～11	2006	
247	ススキ	ススキ属	<i>Miscanthus sinensis</i>	在来種	多年草	草原	8～10	1997	
248	カゼクサ	スズメガヤ属	<i>Eragrostis ferruginea</i>	在来種	多年草	道端	8～10	1997	
249	シナダレスズメガヤ	スズメガヤ属	<i>Eragrostis curvula</i>	南アフリカ	多年草	道端	7～10	1997	*
250	イヌムギ	スズメノチャヒキ属	<i>Bromus catharticus</i>	北アメリカ	多年草	道端	5～9	1997	
251	スズメノテッポウ	スズメノテッポウ属	<i>Alopecurus aequalis</i>	在来種	2年草	道端	4～6	1997	
252	スズメノヒエ	スズメノヒエ属	<i>Paspalum thunbergii Kunth.</i>	在来種	多年草	道端	8～10	1997	
253	シマズズメノヒエ	スズメノヒエ属	<i>Paspalum dilatatum</i>	北アメリカ	多年草	道端	8～10	2007	
254	チガヤ	チガヤ属	<i>Imperata cylindrica</i>	在来種	多年草	草原	5～6	1997	
255	チカラシバ	チカラシバ属	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	在来種	多年草	道端	8～11	1997	
256	チヂミザサ	チヂミザサ属	<i>Oplismenus undulatifolius</i>	在来種	1年草	林縁	8～10	1997	
257	ネズミムギ	ドクムギ属	<i>Lolium multiflorum</i>	ユーラシア	1～2年草	道端	6～8	1997	*
258	メヒシバ	メヒシバ属	<i>Digitaria ciliaris</i>	在来種	1年草	道端	7～11	1997	
259	セイタカヨシ	ヨシ属	<i>Phragmites karka</i>	在来種	多年草	湿地	8～10	2003	

(注) ***: 特定外来生物; **: 要注意外来生物(被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物); **: 要注意外来生物(被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物); *: 要注意外来生物(別途総合的な検討を進める緑化植物); ○: 大阪府レッドデータ(絶滅危惧I類); ○: 大阪府レッドデータ(情報不足)

富田林の自然を守る市民運動協議会

富田林の自然を守る会	田淵武夫
竜泉里山クラブ	松原安茂
NPO法人里山倶楽部	寺川裕子
石川あすかプランを考える市民連絡会	笠原英俊
富田林勤労者山岳会「嶽の会」	上角敦彦
金剛の自然環境を守り育てる会	喜田博三

オブザーバー

日本国際ワークキャンプセンター関西事務局 吉井久乃

事務局

富田林市まちづくり政策部農と水みどり課みどり係

植田信二，山内義章，安達清昭，中尾友保

〒584-8511 富田林市常盤町1番1号

TEL 0721-25-1000（内431）FAX 0721-20-2072

e-mail mizu-midori@city.tondabayashi.osaka.jp

富田林の自然

2008年3月26日 発行

編集 富田林の自然を守る市民運動協議会

発行 富田林市まちづくり政策部農と水みどり課みどり係